江戸名所圖會

十四

農商務省圖書
第共號冊

太政官文庫
書門 和
一三八七 類
二一 號
二〇七 冊
九 架

内閣文庫
和書
一三八七 類
二 號
二〇 冊
一七四 函
九 架

内閣文庫
番號 和 11387
冊數 19 (13)
函號 174 31

国立公文書館
National Archives of Japan

江戸名所圖會卷之五

玉衡之部目録

湯島聖堂　昌平坂

円満寺

湯島天満宮

之橋　忍川

東叡山寛永寺　帯神社

池の端弁天宮

不忍池　青蓮寺

湯島神社　地蔵堂　地蔵堂

麟祥院　二位局清水堂　大元堂　絵馬

同祭禮の圖

神田明神社

霊雲寺　瀧頭堂　地蔵堂

根岸院

中島辯財天宮　弁天堂　清水坊

妻戀明神社

根岸稲荷社　忍岡稲荷社　乙名記者

根岸の里

十月二日開山忌の図　同除魔経　慈眼大師真影　大悲殿

本行寺　乙滝行徳塚　三十番神堂

番神社

浄光寺　人麻呂祠　地蔵堂

谷中瑞林寺

螢澤　宗林寺

七面大明神社　杉繋松　布袋堂

青雲寺

毎月亀日あり　迷産の水

感應寺　八層塔　長安寺書　老人堂

日暮里　経塚　妙隆寺

養福寺　百観音　西山宗因塚

観音堂

長福寺　仲明寺

諏訪明神社　南泉寺　俗性院

道灌山　祖先之墓

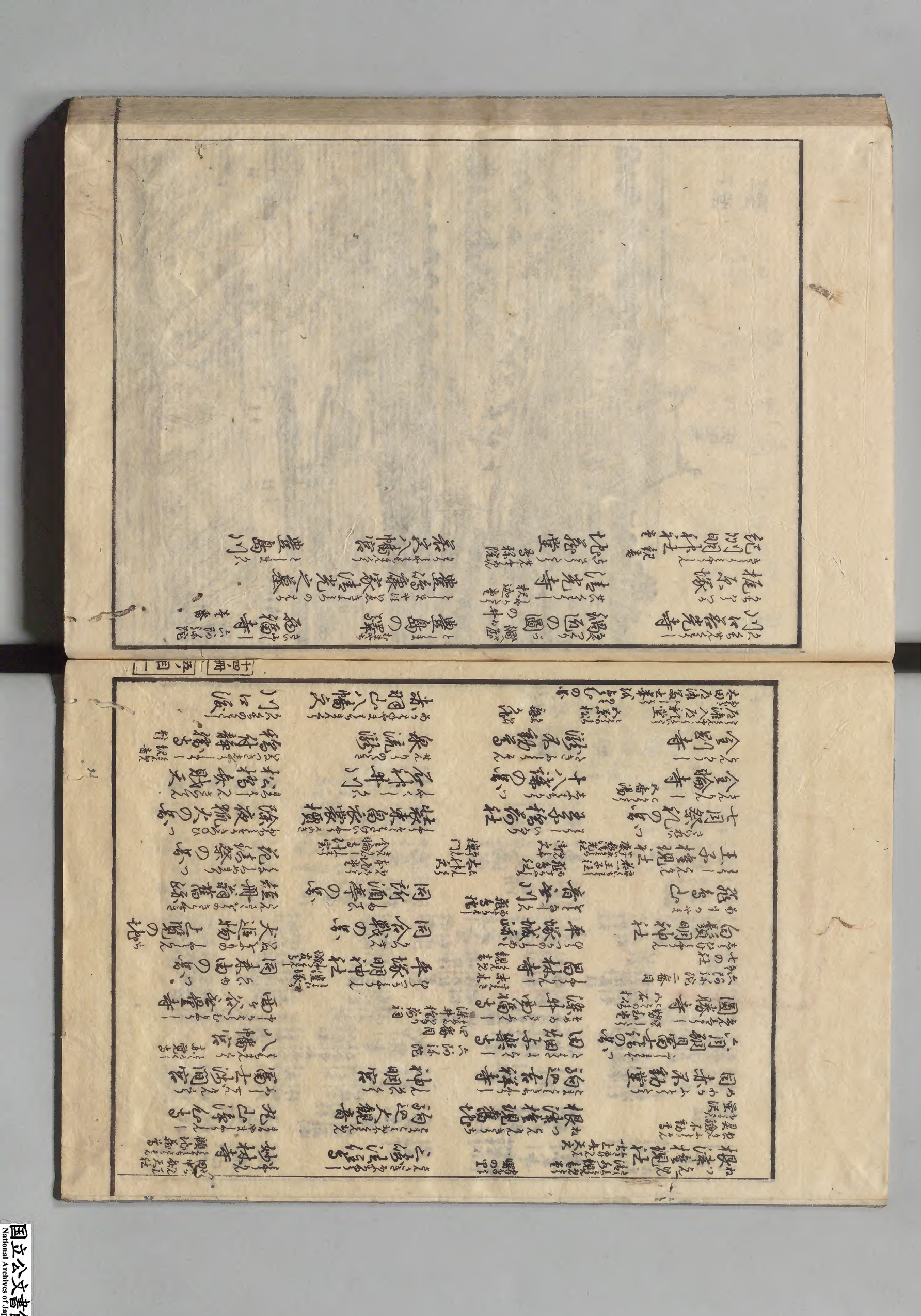
廊門　法花堂　宝光堂　山王権現社　二王門跡　西円寺　復本院　大悪鬼　笠森稲荷社

雲水塔　光彩堂　文殊楊　学寮　開山堂

坊舎　時の鐘　観音堂　帯神社

池の端弁天宮　清水坊　忍岡稲荷社　乙名記者

消印



聖堂

大聖殿
香壇門
梅
裝束所
番所
御高門
手水
昌平坂

新葉集 釋奠

かゝ人も
むゝしの
ふをなし
うゝ来て
あふけハ
ゝゝ
炼の夜れ

妙光寺
内大臣

圓満寺
此辺学問所
入徳門
井
梅壇
手水
三田村

国立公文書館
National Archives of Japan

聖堂　昌平橋の外湯島にあり

本殿　文宣王　右顔子　曾子　左子思　孟子　額　大成殿　元禄大樹御筆

廊門　額　各　持明院基輔卿筆

唐門　額

惣門　額

寛永十年尾張亞相公義直卿林家別莊の地に東叡山にあるの所の山王の社は旧地なり一廈を經營あり聖像あゝびに顔曾思孟の像を置て先聖殿と號ゝ其後田禄の災に罹り遂に元禄四年　台命あつて今の地に遷させられ御造營有しかと已降春秋二度の釋奠怠ることなし　公はさゝあり國〻の列侯より獻備の品ありていと嚴重に執行ふ儒宗林祭酒世〻是を司る本邦第一の学校にして實に東都の一盛典なり　寛政の今御造營あ釋奠二月八月上の丁日に行ふ此日宋六儒を配享ス　君子の画像を掛らふ　従祀　程明道　程伊川　邵康節　周茂叔　朱文公　張横渠

公事根元曰此釋奠は文武天皇大寶元年二月に始ふ禮記の王制に菜を釋幣ス奠て先師を禮とあり此故に釋奠といふあり後漢明帝孔氏に幸して仲尼あるひは七十二子を祠とみえたり又先聖と孔子をいひ先師と顔回をいふ〻〻は周公を先聖と云孔子を先師と申る故唐太宗貞観二年あらためて先聖先師と孔子顔回を申とりやゝ神護景雲二年孔宣父を改て文宣王と申ふ〻　弘仁格に見えあり　續日本紀学令集解等　年中行事哥合

釋奠

ゆゝしの手さゝげ持うゝとあ聖はとさゝふまゝるなり　二位中将

新葉集

同

ふゝ人のむ〻はのぞ〻ゝきそあふげいる紅燈の夜乃月　妙光寺内大臣

神田大明神社　聖堂の北みあり唯一ゝ江戸總鎮守と稱ス

祭神　大己貴命　平親王將門霊　二坐

社傳曰人皇四十五代聖武天皇の御宇天平二年に鎮座ありて其ちゞ紫濤村みの舊地神田橋門内にあり　あゝ頃中古荒廢ゝ既に神燈絶あるとせゝを遊行上人第二世真教坊東國遊化の砌に至り將門の霊を合て二座とゝ社の傍に一宇に草庵を結むび芝崎道場と號ス　今の淺草日輪寺是なり　其後慶長八年當社を駿河臺ゝ

神田明神社

暮景集

深夜の帰屋と
ふてとなる神田れ
社ふく
答よみ
ちぶ
とれ

鳴ぬれて
ゆめよりも
ちぬ
雲

法ちれの
ちる
ぬ
夜半
ちり
ちる
左田
持資

され其頃日輪まの拝原あく地をたまふ元和二年ゑ今の湯島にうつさせらふ其い儘舊號を用ひく神
田大明神と稱ス神主を代くく祭禮隔年九月十五日江府神社の祭礼い永田馬場山王ハ第一と當社ハ是に次いぐれと
公よるの沙汰とく練り車樂等善盡し美ハ盡し町中を神事能隔年九月十五日祭礼の終
陪従也是一時の莊觀ゑ此日都下の貴賤棧敷をつけて見物ハ北条五代記曰ハ永四年甲申北条氏綱上ル朝臣を
其堂ハ右ハ江有の町中より棧敷をつけて見物ハ十六日ハ臣行也神前ハ祭
貴族し武品を淀とゑ合戦の砌ハく其年ハ神事能おく翌年九月十六日に臣行あるされと吉
例として上方より暮松を送ふを宇下し年く臣行あるとゑ連綿として相續く臣行
あるハ享保の頃より故あるて中絶ス
祇園三社本社の西ハ並ぶ當土地王の神あり毎歳六月祇園會有の

祭神
素盞嗚尊
奇稲田姫
五男三女
八王子と称ス六月五日大傳馬町旅所（神幸同八日に帰輿あり
大政所と称ス六月七日南傳馬町旅所（神幸同十四日ハ帰輿あり
本御前と称ス六月十日小船町旅所（神幸あり同十三日帰輿

社家の説ハ大政所と稱して南傳馬町の旅所（神幸あるものハ則風土記ハ所謂江戸神社ハ
と称ス故に祭祀の砌舊例ハ御城内大手の橋上ハく奉幣の式あるも其舊地あるに
依ハるとそ

風土記曰豊島郡江戸神社大寶二年壬寅所祭素盞嗚
尊也神貢百束三字田云云
當社の境内常ハ賑しく詣人あるを
を出して風流ハ弱ぶのなるぶちとハ殊更近来ハ瑞籬ハ楊樹をあまた植られハ

弥生の頃最美観なり

萬昌山圓満寺　湯島六丁目にあり真言宗ハして開山を木食義高上人
なり本尊十一面観世音如意法尾の御作あり法尾ハ淳和帝の妃ハして弘法大師の御弟子なり左右
ハ六親音を安置ス當寺ハ世に木食寺と称ス
寺傳曰開山木食義高上人を覚海と號ス足利十三代將軍義輝公の孫
義辰の息あり義運ハ子孫あるひゑの幼より瑞相あるハ仍て生家し
肥後國佐土原の福禪寺ハ入く覚深師ハ随従し木食となれり寛文八年衆
生化益のために東奥ハ下りあまた称く霊地ハ巡しまくるハ堂宇を建立ス仁和
寺宮道永法親王此事を聞し召れ感稱ありて傳燈大阿闍梨権大僧都法印
ハ任ぜらるハ其後西國ハ赴くの頃も大に奇特を顕ス延寶三年十月都ハ上ル
堀河姉小路多門寺に止宿有し頃微疾を患ひ同四年正月廿一日自臨終の
期を知ル時ハ諸の菩薩来現あるく示して曰唯今ハ汝が臨終の期ハあ
らぶ早往生せんと思ふ猶大願ハ企普く衆生を化益ス べしと云云仍て同五年

神田明神
祭禮
隔年九月十五日に
執行ふ氏子の
町くよりの練物車樂
出て中あも
大江山凱陣
牛若丸奥州下
朝鮮人来朝の学び
あとゝ球よ遠近に聞て
其名高く
最
美観
たり
大江山凱陣
東江源鈴書

花
大
名
嵐雪

其二
孝武

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

江城湯島の地に至り彼佛の教に隨ひ諸人れ求に應じて無量の願成
成就し大に霊驗をあらはし同七年御室宮人参るに行法の嚴重なるを
御感あつて高野山光臺院の住持職に任ぜられ又天和二年七月十三日
叡内を頭中將隆真卿の傳奏ふして光臺院住持職勅に應じ國家安
全寶祚延長を祈奉るべき旨倫旨成賜ふ祖先の忠義に仍て名字の文えん
祿四年志願によつて光臺院を辭して江戸に至り本郷三組町に住せらるる
其頃
大樹常憲公をしび淨光院殿頂山女を訪ひ御祈禱を仰附らるる室永
六年上京に此時昇殿を許さる同七年江戸湯島の地に梵刹成建て
萬昌山圓滿寺と號し
大樹文昭公の御志願に仍て本多彈正少弼忠晴奉行たり則上人を以
て當寺の開山とし享保三年六月七日化縁の薪盡て終に春秋九十五歳
にして遷化せ以上開山傳の
略を擧

圓滿寺
俗に本食寺
とゝろ

寶林山靈雲寺　大悲心院と號し圓滿寺の小丈方にあり開東真言律の惣本寺なり覚彦比丘の開基なり

灌頂堂　両界大日如來を安置し

大元堂　灌頂堂のうしろ方にあり中にあり本尊大元明王の像八臂大元明王の彫像を祭る

大元明王の彫像は往古美和元年山城國小栗栖の常曉阿闍利唐土より花林寺の大師より照師に渡り照師常曉の器才を称して始て此秘法を授く常曉帰朝の後美和二年奏聞を経て小栗栖の琳寺にて始て是を修し後勅許あり毎年正月治部省に於て是を執行なせり又延喜式に蕃客式曰凡大元帥法毎年修之云云

鐘楼　本堂の右にあり開山覚彦和尚自銘を作る

正月起八日至十四日一七箇日於省修之云云

寶林山靈雲寺鑄鐘銘並序

武都北郊有一勝地四埜廓落四方之衆易來而投一丘崛起一天之星可坐而算菅祠艮聳神鬼常作擁衛士峯坤峙靈祇遥為鎮護東叡天澤後聯鐘梵互和龍城聖堂前屹旭曛相映實武野之甲區者也從四位下柳羽州源保明者幕府之侍臣也天性篤慤忠孝是務在公之暇嚮志眞乘常歎世季俗漓奉佛之從不拘戒檢以故象教從設無益因啓幕府堅請伽藍之地以囑貧道遂使今茲仲秋之二十二大將軍下旨賜許斯攸予乃夷榛莽卒剏營構遐邇競趨緇白佐助自閏八初二始斧以至孟冬之半土木之績倏示告成從四位下牧野備後刺史源成貞者時之股肱也覧而有感喜捨家貲命于鳥氏鎔成鉦鐘復令工匠締造其樓今月初四樓鐘偕就以惟斯寺之興起也者本是大將軍之賜而二公醇信之所致也予欲使後生有感于茲欽遵佛制力荷教法上以禱以增士民壽福也乃為銘曰

城北福庭山號寶林役工日臨作夫四集牧野備公為時股肱效響鏗鏘架摟突兀聲雖本有圓性融相誰縛誰泄

元祿四辛末年孟冬

地藏堂　本堂の左れ方艮の隅にあり本尊地藏菩薩弘法大師の作あり

覚彦比丘の両像を安置し

開山諱八淨嚴字八覚彦妙極と號し河内錦部郡小西見村の産し父の上国氏母

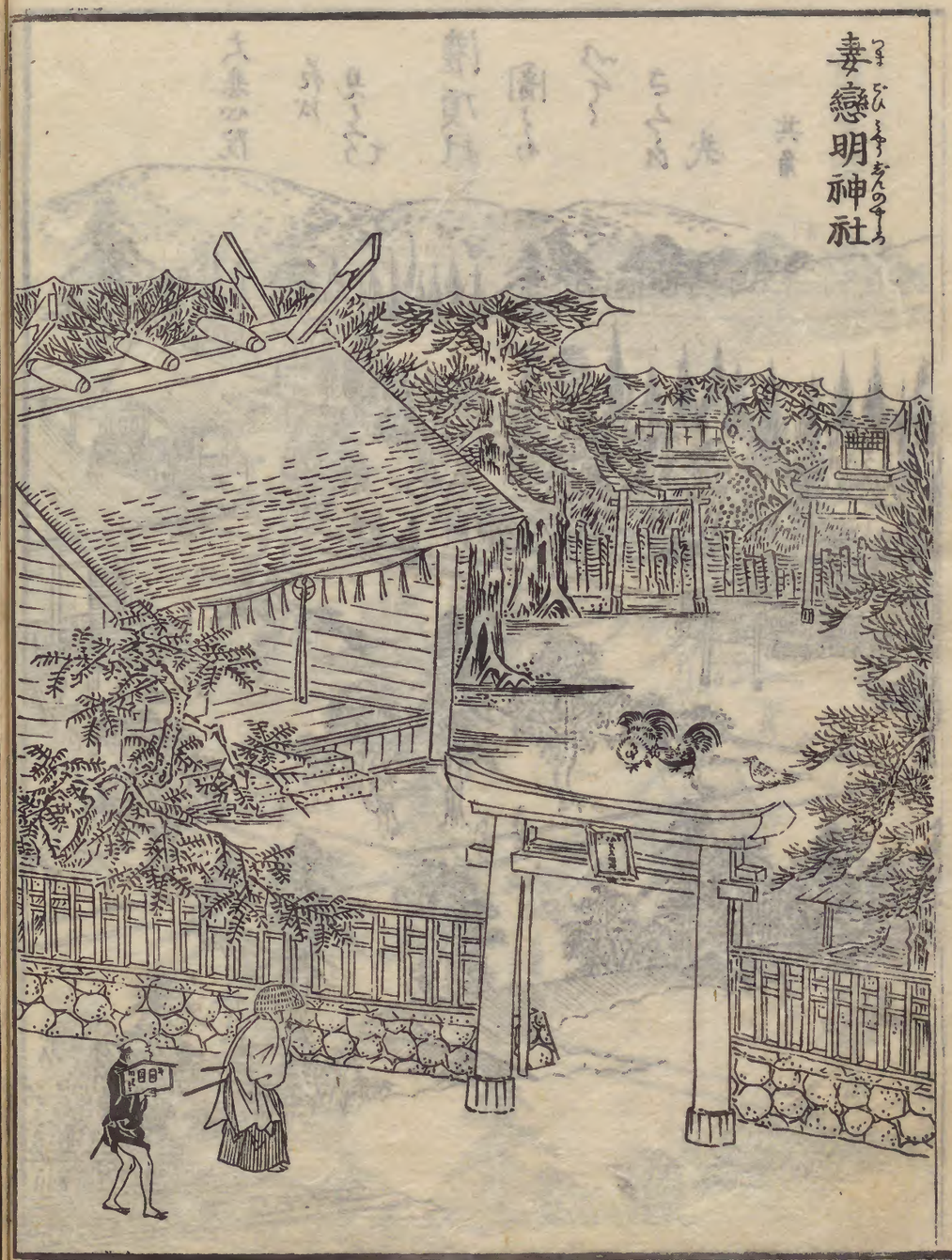
秦氏なり寛永十六年己卯十一月廿三日に生ふ四歳みて普門品尊勝大陀羅尼を誦ふ奇標穎悟夙因の發する所ゑ凡耳目の歴る所終ゑ遺忘ふる事なし衆人是を神童と称せ慶安元年戊子高野山撿校法印雲雪に禮して難染を昔に年十歳朝参暮詣倦事なし紀州亞相公頼宣卿一度見たまひて深く是を器あるとし真みまれ方外千里の駒なりとのたまふ遂み真言の諸流を秘奥を究む又餘暇あるを孔老を学び諸子百家歴史等渉ざるとなきなし常に法戦の場み臨に向ひ敵なし貞享甲子冬錫を開花に飛に其暁瑞雲あり東を指其色赤黄みして長きを数十丈なれ和尚の法化将み東方に振ひんとするの兆あり一度東都ゑ来りて法敵江城の下に震ふ仍て和尚の道香に慕ひ弟子を禮に設厚くされに遇ふる輩もそれぞれ元禄四年大将軍常憲公召見しまひ普門品を講せむ雄辯泉の流るごとく聴者欣然として善と稱に遂み城小にして地を賜ひ梵刹に経始にすをひて

佛殿僧房香厨門廊甍を連ね巍然として一精藍をなれ號く霊雲寺とふ是往年の瑞に依くなり遂に密壇を建秘法を行ひ講筵を舗大み密教を唱ふるにをんぐ諸名匠衣を掘て来り至れ同五年壬申六月大元帥の大法を修し国家昇平を祈ふまれなを以後毎歳三神通月七日依法をもて永規とに翌年多麻郡の戸若子を割て香積に充開東真言律の僧統となしたまふ又乙亥夏大将軍常憲公ぐ齋戒しまひ大元帥金剛の像を畫き本尊に下し賜ふ今大元堂に安置し奉ふ同十年丁丑僧俗の請に依く曼陀羅を開く檀場に入者九万人み幾し隔年灌頂を行ふ既に元禄十五年壬午六月廿七日諸徒に召遺誡懇懃なり我今法界三昧ふ入とらひて恬然とし順化に世壽六十四僧臘二十七時に顔四十許色相怡悅として平生に勝ふ師常ふ弘通を以て己が任とし受所の財帛をもしも貯えず又みずから費さず佛像を造り聖教に索め堂塔を構貧窮を済ふ茅後経論を講説をもて一百

霊雲寺
大元堂
方丈
灌頂堂
鐘楼
惣門

大悲心院
花は見えて
灌頂は
閣よりも
さくら哉
其角
元山堂
賀茂
いろは

妻戀明神社



三十六會殆三十席祕軌を授ふこと五回著述を所の書三百卷余度を
於處の僧尼四百三十六人具足戒を受ふ者十有三人阿闍梨を得る者一百六
十八人受明灌頂よ決する者一千六百三十一人菩薩戒を受ふ者一萬五
千人其余の法化の挙て數へ難し往哲のいまゞ發せざ所を發し先賢
未明なりしを明らかにあらはし漸化洋々として天下に彌布し王公より
下愚夫慧婦よ至ふ迄敬仰せぬとなきふ今古いまゞ考へ難きの所
實ふ總持復古の師なり以上當寺開山傳の要を摘ぐさに記せ

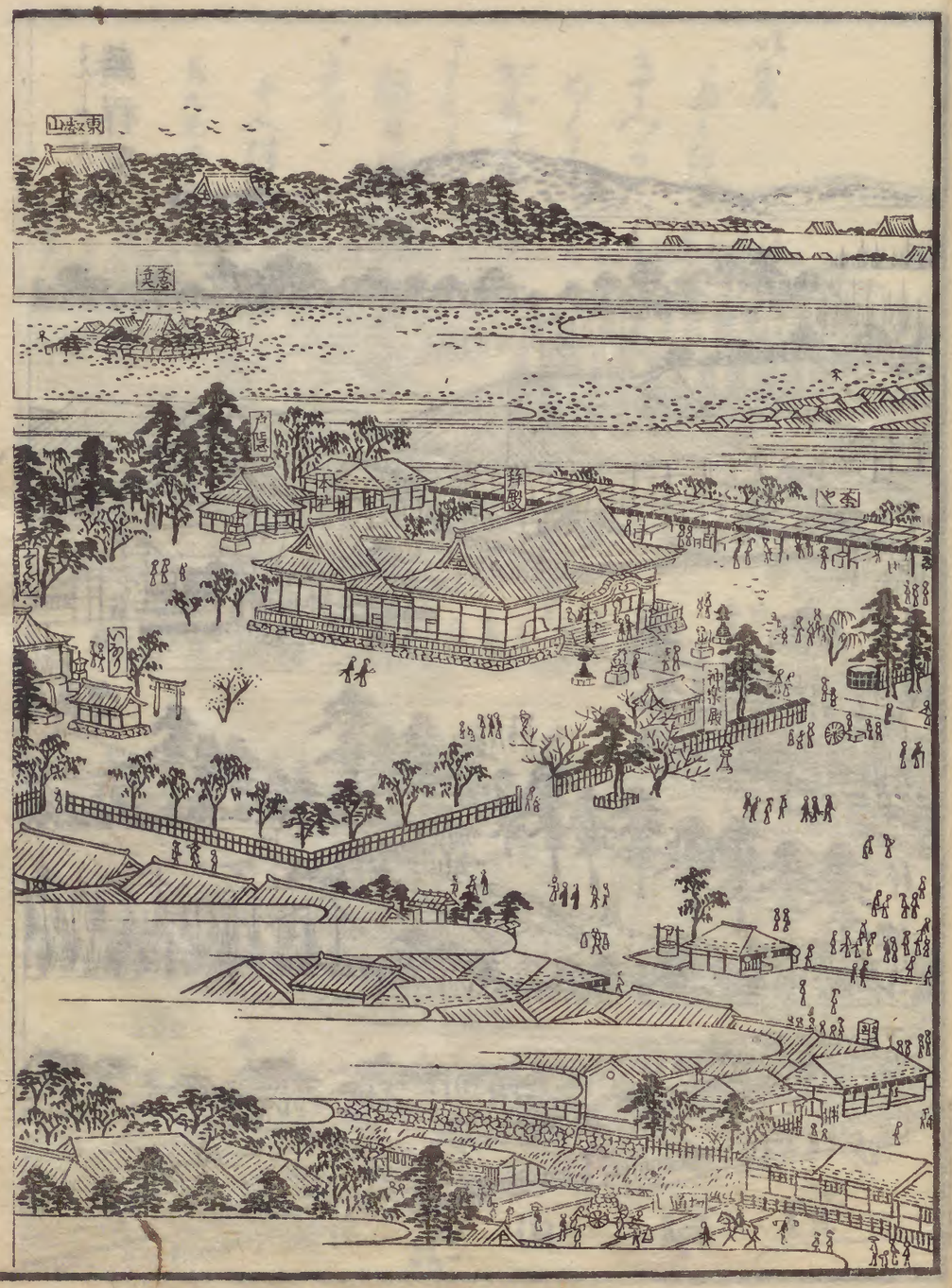
妻戀大明神社　妻戀坂の上にあり万治年中回禄ありて後今の妻戀臺
ふ遷ら せ る

祭神　第一殿　倉稲魂神　第二殿　日本武尊　第三殿　弟橘媛命

社傳曰當社ハ往昔日本武尊東征の頃行宮の地ありと云々
按に日本紀よ日本武尊東夷征伐の時妃弟橘媛海水よ入て吾妻權現の麓下に流
れあ〜くなりたまふ依て尊此事を深く歎ぶたまひ帰路よ連んで上野國碓日嶺に
登り東南の方と望たまひ吾嬬者耶と宣ふよし見えたり因て考へこの地も東
征の時に行宮の地ありしよりく彼尊を崇奉て妻戀慕ひたまふの意を取て直り

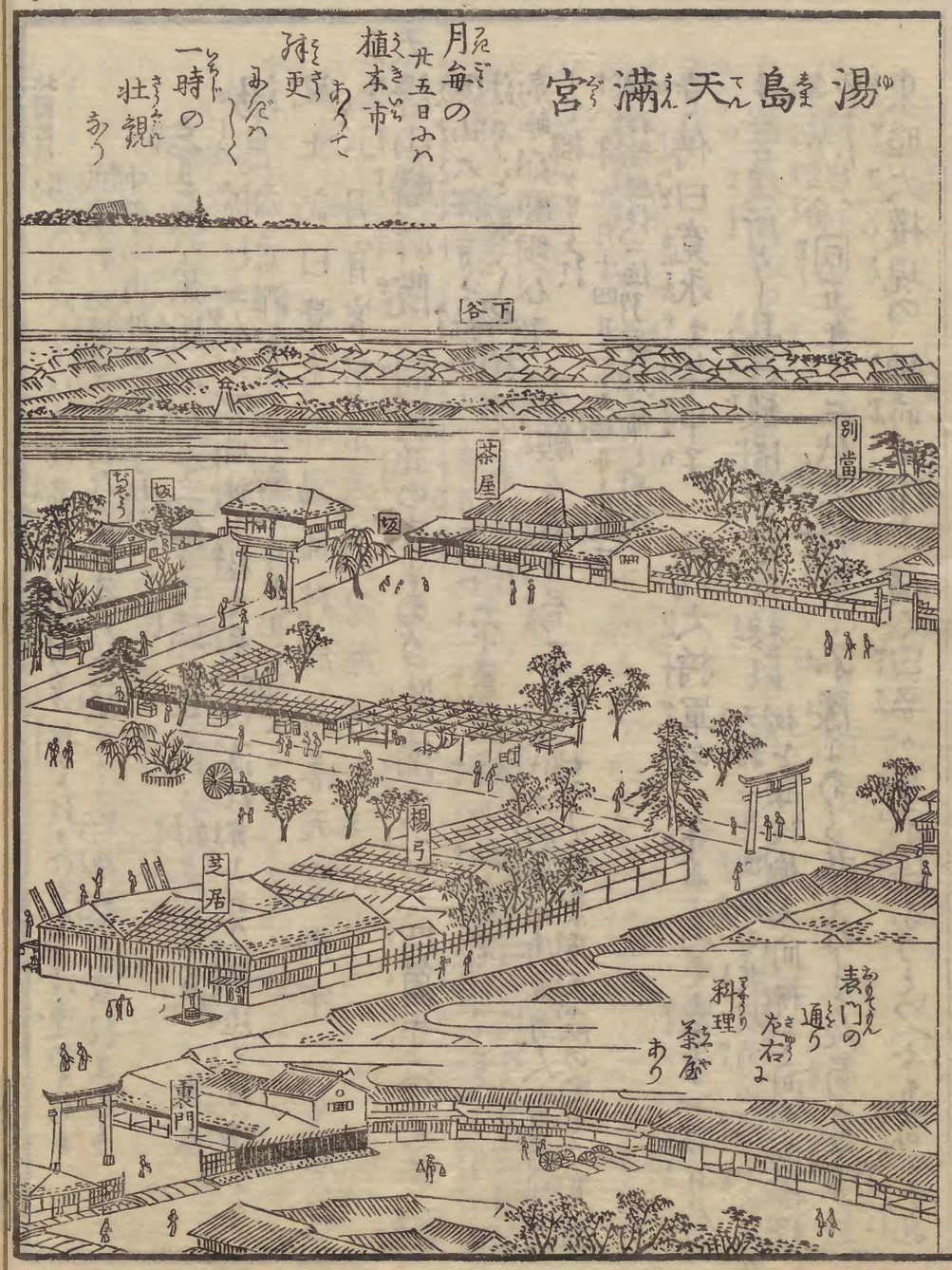
妻戀明神と号し奉り稲荷明神をもつて社の號を
称せられ候ゆえ後世合祭せるなり
往昔より社地も妻戀堂の下にありて境内まれなる廣くして敷度
出兵火の罹て大に荒廢せしを再び纔に社の形ばかりを殘せり時に天正
年中
神君當社に御祈願の事ありて新に二丁四方の社地を賜ふ又寛永五年
台命によつて
神君の御像を別社に鎮座あらせられ万治年中田祿あり今稲荷の社に鎮座奉るとなり
湯島天満宮　妻戀明神の小れ方にあり古田道灌江戸の静勝軒にあり已頃
文明十年六月五日の夢中に菅神に謁見せ聖朝外より菅亟相親筆の画像を携来る
者あり乃菱中に祭せる所の尊容に彷彿せる故以て直に城外の小祠に祠堂を
営彼神影を安置し且梅樹數百株を栽美田等を附せ即當社是なり
以上諸社一覧江戸名所記等の書に出ずるとなれども思ふに謬なるも麹町平河天神に
覧亟相直筆の画像と称せるものありて今日當社に此影あるとなり其論
あるとなり案
に畧す

北国紀行　思ふの間れあるびに湯島とて所あり古松ありて連のうちに
武藏野の遺望を懸たるに寒村の道もなく野楊盛に薫じされる
小堂の内神と聞えれば
立ちよりて東風吹むもせじ祈すで遠くきあの神を拝ばや　亮惠
湯島神社　土人戸隠明神と称せ本社の後れ方にあり則地主の神なり
例祭毎歳九月十日に行ふ
風土記曰豊島郡湯島神社雄略天皇御宇二年癸巳
八月自官所祭天手力雄神也云云
天澤山麟祥院　同所北の方にあり臨濟宗江戸四箇寺の一なり舊報
恩山天澤寺と称せしを春日局の
法号を取て麟祥院とあらためる
京師花園妙心寺
本願を春日局あり
十八年九月十四日六十五歳にして没す
麟祥院殿従二位義大姉と号す
寺傳曰寛永元年甲子　二代大将軍の　命によつて當寺を春日局
菩提所として且其殿閣を造に移す天和二年田祿を其以前の禄今十八
等皆雲谷の筆なり　同五年　三代大将軍　枚を存に梅の間柵の間寒山拾得
東照大權現の　神前に詣て禱て曰妾が身不浄あるといへども苟も乳



湯島天満宮

月毎の廿五日みハ植木市あるて殊更あんたハ一時の壮観あり



表門の通り左右ハ料理茶屋あり

麟祥院
本堂
庫裡
鐘楼
弟中

碑堂
碑
冠山堂
物門
烏丸光廣卿

根生院

味を奉りて乳母の称を汚し歳月祠奉れり且将軍の萬民を父母と
若今大故あるとれる國家の安危はかれり願くは妾が身を以
是に替り奉らむ若快復あらしめば忽に身に病苦を受誓て醫藥
を用ゐして死せむと云云其衷誠正に感應ありて日を経ずして常にあらせ
たまふ仍て身を終るまで針灸藥餌を用ひず同六年洛に上り泰内
に西三条大納言實條卿兄弟に準ぜられ春日局の号を賜ふ遂に
天顔後水尾帝を拜し　天盃を頂戴す此時良尚親王ならびに實條卿
光廣卿とを和哥を贈られ

春日山其名代よりもあらしてまつ代ならぬ松の風かな　良尚親王

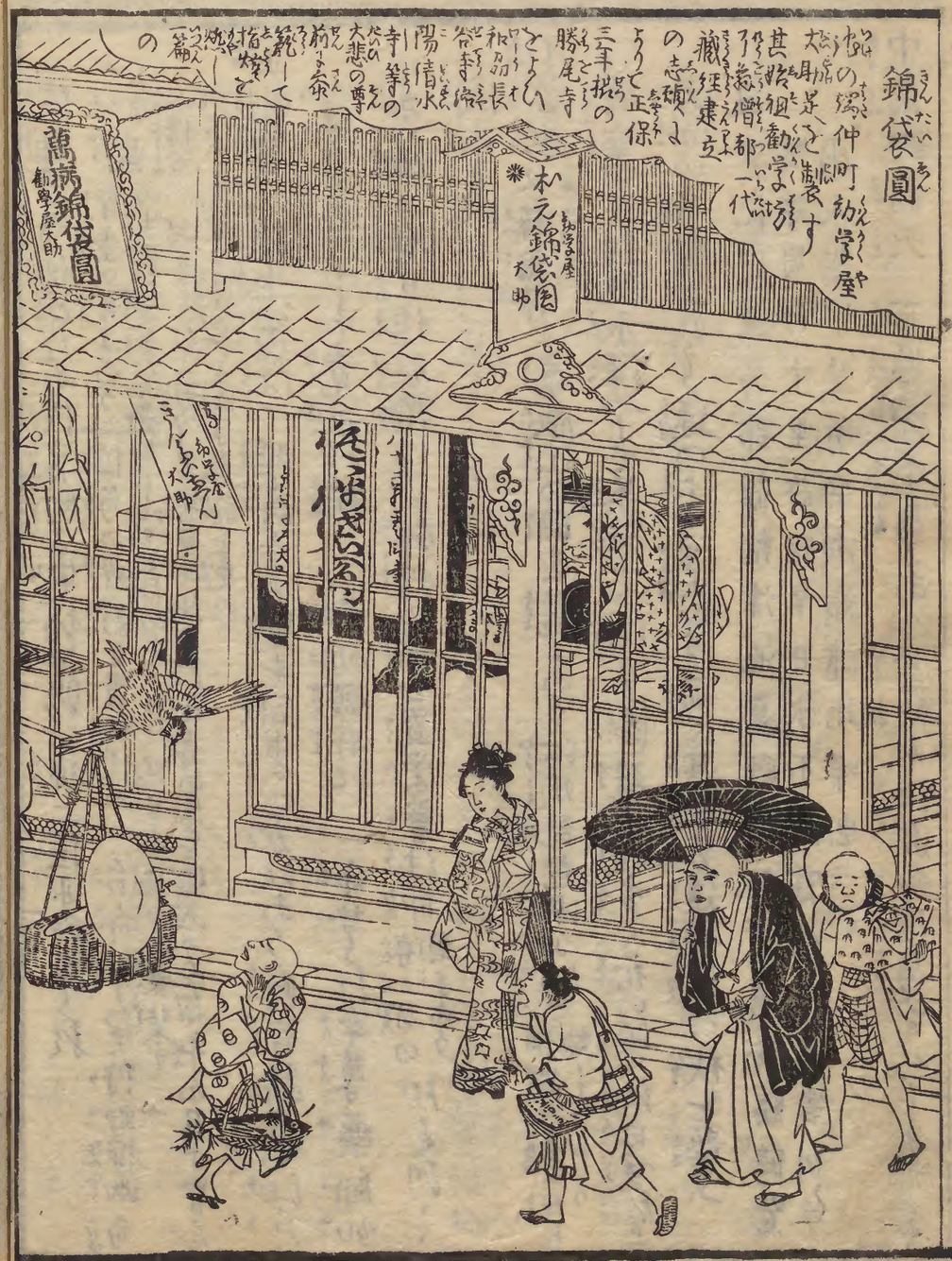
かるがゆの名ゆゑにたかう紫はけ色のはるるもせはやあられん　實條卿

いやたかき君がはのうけ春日局　光廣卿

其外挙白集に大山長嘯子より賜らる所の東都下向餞別の和哥詞書等
あれども茲に略す

同九年　台命に依て再び洛に上り　女帝明正帝を拜し奉る

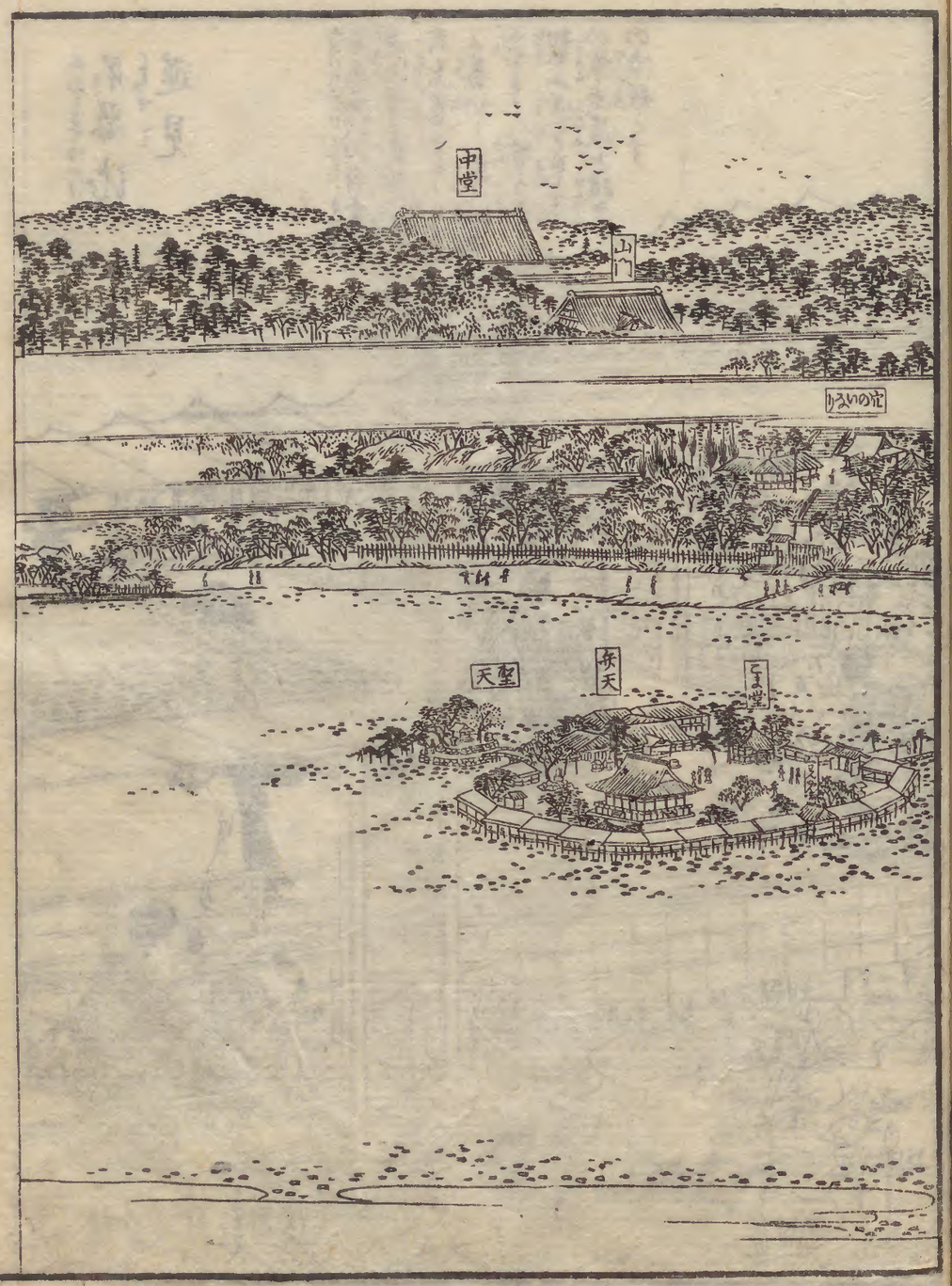
後勤労帰依のため代官町に宅地を賜ひ従二位に叙せられ
彩堂　本堂の左にあり二位局の親影を置此像は　台命によりて狩野探幽局
景の生前寫真を著せしめ女を目のあたりに寫せし像も表装も
大将軍　命せられ所あり唐草の紋子に卍壽の字を織入り毎年九月十四日忌
日たるに因て法筵を開き経詣を免れ
金剛寶山根生密院　延壽寺と號を同東の方にあり真言新義江戸
四箇寺の一にして寛永の始　御祈願所に　命せられ本尊藥師如
来の佛は春日作脇檀に十二神将の像を置栄誉法印春日局の猶子なり
開山とす
不忍池又篠輪津　東叡山の西にあり江州琵琶湖に比せ不忍とは忍の岡に
廣方十丁許池水深くして旱魃ふも涸ることなし殊に蓮多く花の頃は紅白咲乱
天女の宮居にさしぐ蓮の上に湧出るが如く其芬芳遠近の人乃袂を襲ふ
風土記曰豊島郡篠輪津池貢鯉鮒鰻魚鴻雁鶴鶴鷺
鴨等周行十里許程旱日水不涸霖雨不爲害祈旱
雨人詣于茲所祭瀬織津比咩也云云
中島辨財天　不忍池の中島にあり當社を江島竹生島のうつしみ

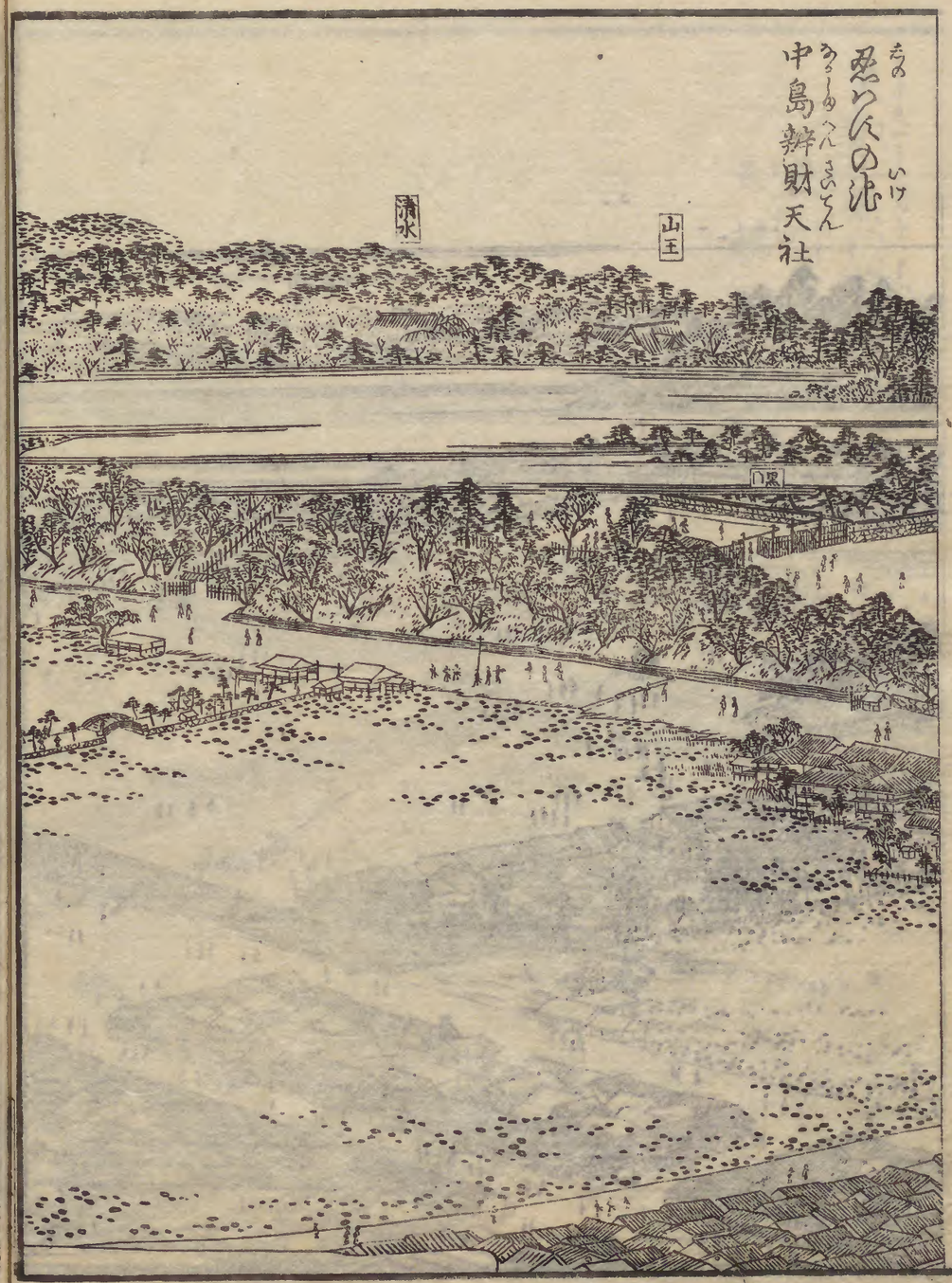

錦袋圓
萬病錦袋圓
創寧屋太助
松元錦袋圓
太助

其翌年彼
一指大よ瞳て
苦痛堪かゝ
時よ爰中肥前
の冥山如定禪師
錦袋の中より
一霊藥を取出
て授らくとえる
爰さて後速よ
彼藥と製して
服せ
其後衆人の患者よ用る
百人必百愈ぜしと云事
なしよりて此地よ庵を
冥さ万病錦袋圓と号彼
霊藥と製し蘭て竟よ其價
の余計と
一切建立の料よ充
志願の全き事を
得らうと

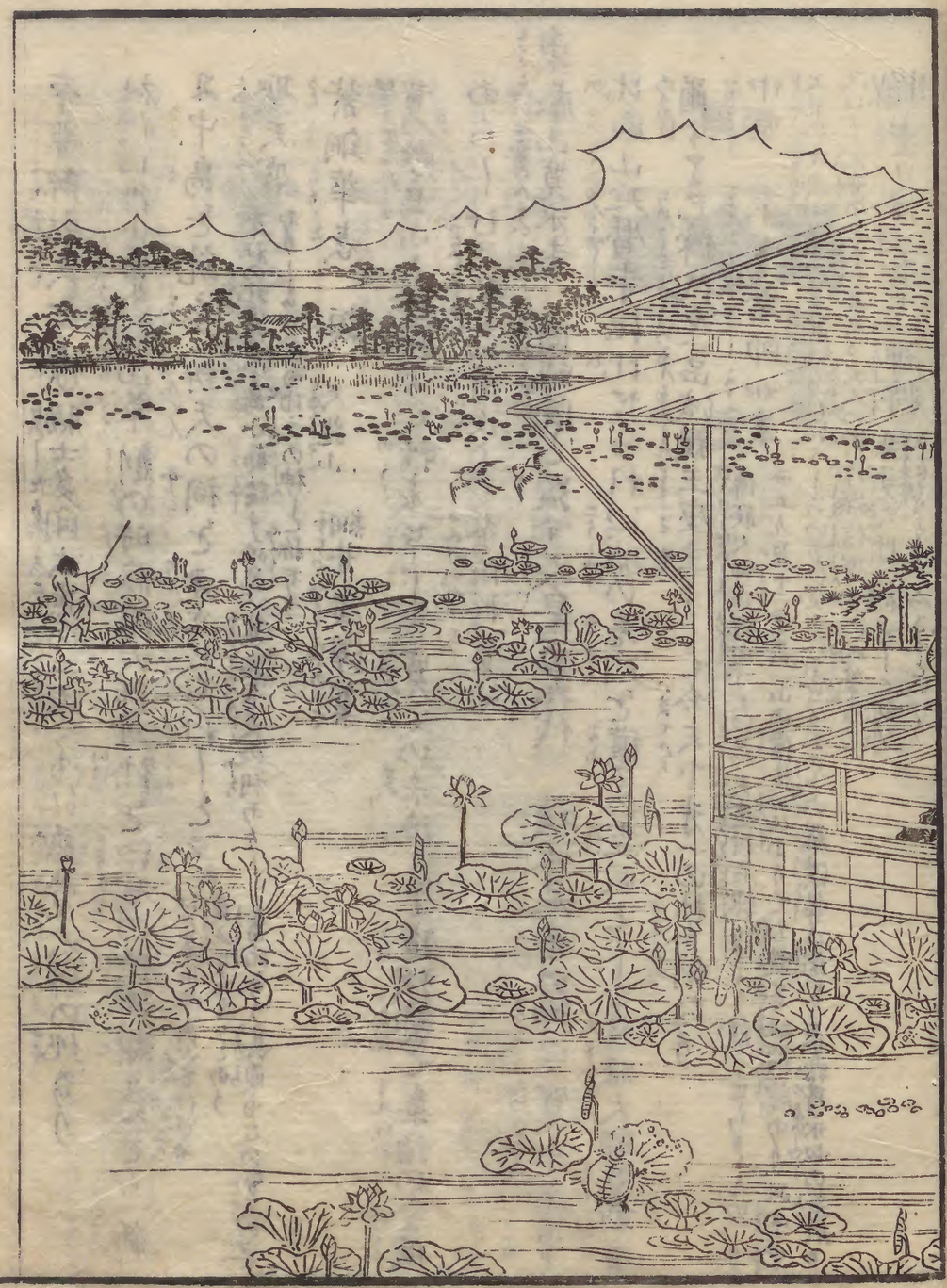
山下
仲馬
三王門跡
仲町

東叡山黒門前
忍川
三橋
きの川





国立公文書館
National Archives of Japan



忍池蓮見

忍池は江府第一の蓮池なり夏月に至れば荷葉累々として水上より蕃衍し花は紅白色をなして芳香人を襲ひ蓮を愛するの輩夜晨を徹して清観とす

本尊辯財天をゝ脇士多聞大黒の二天ともに慈覺大師の作なり

社傳曰往古東叡山草創の時慈眼大師此沖を江刺の琵琶湖なぞらへ新

又中島を築立て辯天の祠を建立せられしと云云 江戸名所記に水谷伊勢守建立せらるゝとあり

聖天宮 本社の北の方小島小勸請す此島は甚始天の祠あり〻 書洀あり其頃もこの聖天の宮

あり〻しを今も洀立の神と称せり

紫銅華表 額 天龍山 細井廣澤筆

昔は離島ゝして私なく往来せ〻を寛文の末陸地を道路築て參詣の人々便

あらゝむ已巳日は前夜より參詣群集す

東叡山寛永寺 圓頓院と號す人皇百九代 後水尾帝の御宇寛永年中

比叡山延暦寺に比せられ江城の鬼門を護るの霊區として慈眼大師草創有

爾よりこ已降代々一品法親王座主として今天下第一の梵刹たり

中堂 本尊藥師如来 傳教大師の作なり 延暦寺造立石津 寛永十年造立

延五九月十二日より一山の僧徒出仕あり大盤若經轉讀あり此堂中

天井の中央小畫いる龍あらはにうしろの方の壁上に写せる不動十六羅漢等の像いともに特殊永叔の筆なり

又は一天井の左右小畫いる天人は特殊探信探雪の両筆なり

脇士 日月二天十二神將 慈覺大師の作なり 立石なるべしといへり

脇壇 不動明王 智證大師の作 多聞天 定朝の作

額 瑞璃殿

瑞璃殿

靈元法皇震筆

竹塹 廊門のうち左右にあり 昔慈覺大師入唐の時五塹山の竹を根こゞに携へて帰朝の後叡山根本中堂ようらるよりて東叡山も其根をうゝけ移し植て法流の絶さるを

もとゝする又同しく左右小き塚あり石柳を植そゝ俗夜叉夜叉女の影向不ありとて

廊門 天井より迦陵頻鳥を畫けり特殊探信探雪の両筆なり

額 寛永寺

後水尾帝震筆

雲水塔 中堂の前右の方にあり多宝塔と富士塔は初慈眼大師の建立なり今は仏の古像現存あり

冠山慈眼大師 建立 三十番神社 當山の護法神なり

轉輪藏 中堂の前左の方にあり一切經を収む前に傳大士をゝ普賢普城の像を置とこの堂は水府公の浄建立なり

東叡山寛永寺

櫻ゝ峯

山王社

山内櫻樹多き中
ゝも此辺ど櫻ゝ峯
と号し
先生栽る所なるとし
鵞峯文集ふいえり

東叡山上陽春衣　南郭
東叡山下背花歸
回看終日酬歌處
風起晚來爲雪飛

其二

清水観音堂

秋色楊

秋色楊ハ清水堂の御供所構のうち井のもとにてこれを植ゝ花ハ一枝すて虎尾と称するりの是なり中須江府の商戸何某の女秋色と号へるりの花のころこれより井戸ちさの楊のよみし詞といへる秀句

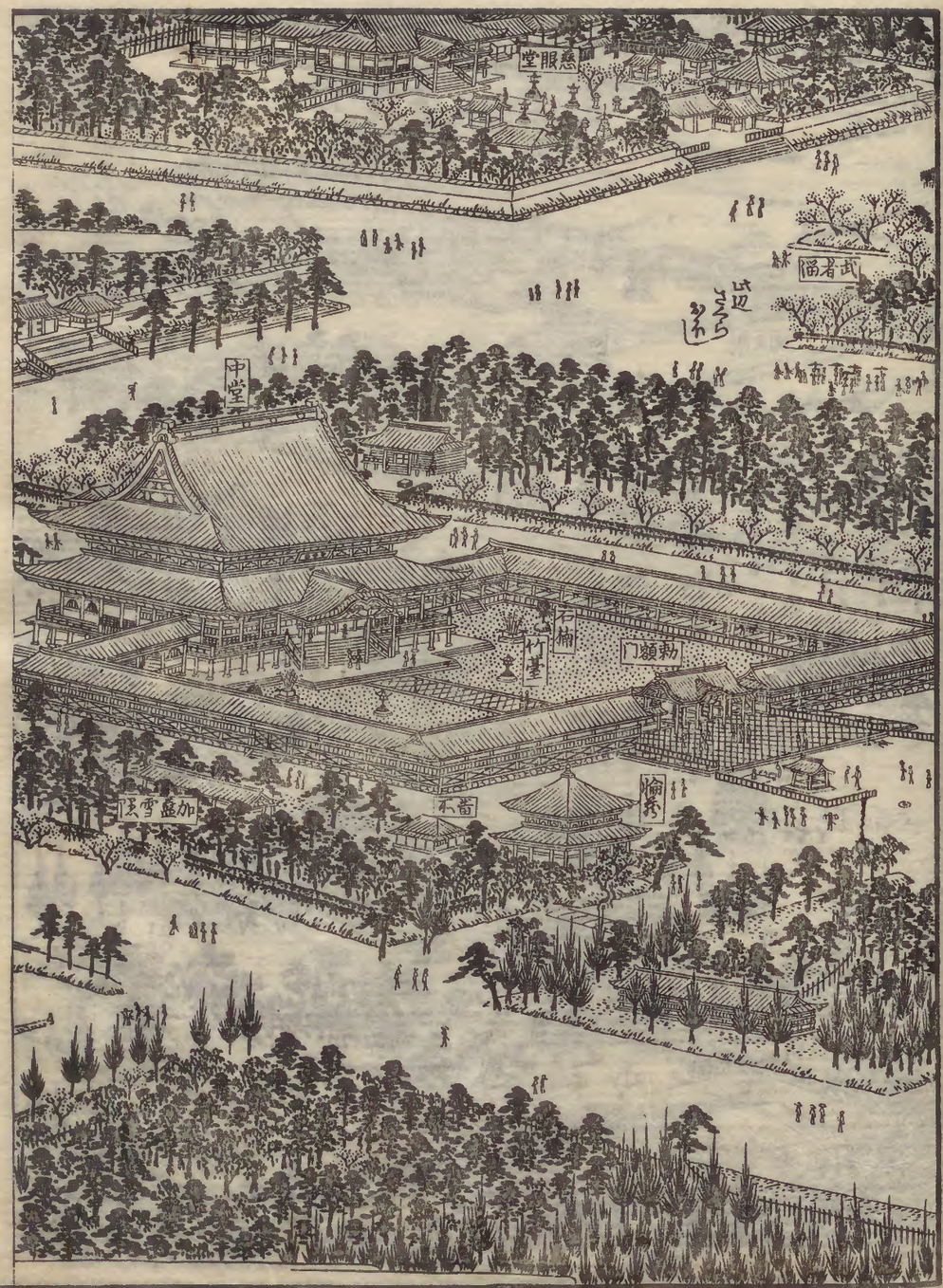
うゝ
名つけとる
ん

木のもと
小
汁も
鱠も
さくら
かな

芭蕉

四条河原
大佛
吉祥七面

其三
坂東
凌雲院
文殊堂
時のうみ
所番
番ヤ


慈眼堂
武者溜
中堂
竹壇
石柳
勅願門
加藍雪
不動
鶴秀

其四
厚風坂
法華堂
常行堂
慶護

其五

東国名所編 社

法華堂 中堂の前右の方にあり普賢菩薩を安置し敬白月八日仏生会修行あり この堂八紀孔子の建立なり 左の方にあり阿弥陀如来を安置せり毎歳二月十五日涅槃会修行あり 此日特堅常信の筆なる涅槃の画像をかくる 此堂八尾州 その中間に渡殿 設くる世に名高き摩多羅神常行堂の中に勅請を依て この堂の後の方に華表を建 往古最澄入唐の帰朝の後この社を祭る一名八摩多羅神 是大已貴命の一躰なり 山王八王子 氏神 氏子 中に現れて曰く我姫と護ると云へり 仍て風帆はやく 金毘羅神 中に現れて曰く我姫と護ると云へり 仍て風帆はやく 同じく左の方にあり土井大炊頭の建立なり 錦八林羅山先生題を作らるる 楼 閣 物の形八世に優れて彫工左甚五郎なる者の作とぞ

大 東

武州東叡山鐘銘并序

江城艮維有一佳境誠是靈區也叡山大僧正天海
告官相攸以欲奉營東照大神君之原廟由是伊賀羽林次將高虎雇梓匠
祖之力成土木之功屹焉巍然昭々如在益廣大孝之本舉世皆崇闘國悉敬此時貴戚之群
廟共継其志或列立高堂或造設輪藏加之士林之
卿各同其心亦建院宇不日而成輪奐信美既而
済々朝宴夕霽可謂盛事矣於是利勝建五層
宝池清紺園塔謹奉風祝霜有日瓦甍猶新如峙于空似涌自地然今
感保相為神意其國公黄之理耆之寶惟夫新範鑄鬼鐘高架一樓伏顧因此丹忱
天應之曙色聲来而耳圍之體外妙之圓而中虚是心之譬乎
鶴應霜往亦延千年之謂也長鯨吼月早開
霜永之遐齢庶幾乎

神風威風叩之大鳴君道臣道唱而後和懇禱之趣
不在茲乎銘曰　東州寶池上方銀界　茲移台嶠迺唱梵唄
東德同塵常不語惟　靈庇闕宮人天俱拜
陶鎔鑛銅脱出鑛鞴　疊石構樓拘籠高掛
聲教遠聞朝警暮誡
神
寛永中東叡山寶利始成之日我先侯利勝造立鐘
國家壽久福介
寛永八年龍集辛未秋九月日
寛永中東叡山寶利始成之日我先侯利勝造立鐘
樓一宇新鑄華鐘以叡焉年代久遠破聲嘎於是
謹仍舊貫更鑄以懸焉刻以先侯銘文因記其由云
干時
寛政二年庚戌五月下總國古河城主大炊頭從五
位下源朝臣利和　治工　太田駿河守

東照大權現宮　文殊樓の後たの方にあり　大石燈籠　同所構の外にあり　二丈あまり　經石の經り
往と當山とをあらせく日本に三つの大石燈籠一丈二尺棹石三間京師南禪寺尾州熱田
の一緒なり寛永八年孟冬十七日佐久間大炊頭之類
大佛殿　同所にあり　紫銅をもつて二丈二尺余に作る釋迦如來の座像を本尊とす　西方
丈六阿彌陀の一尊　又彩色佛の像　弘安元年造立なり　堂内に
慈願庵空海上人の建立なり　府六地藏
三尊　もつて現世過去未來の三世と表せり　往昔
堂宇もつとも久敷侵されたりと雖とも當建なり　大明院宮公の
額　吉祥閣　大明院宮公辨法親王真筆

より　鯨鐘　同所にあり　二六時
理　丹波の直時　唐鐘　牛頭天王社　同所にあり　當山地主の社
崇敬なりて土と造らるといえり　神系は　寶光堂　同所にあり　本尊
ふして寛永八年辛未
青龍院は二世無相院亮甚僧都　享保の頃堂宇を建立せり　疱瘡の
文殊樓　會津の法義なり　移せらるる
文殊樓の左にあり　石塔の上に祠ある方に世俗穴稲荷と号く當山草創の
忍岡稲荷祠　時冠山慈眼大師これを勧請　記せり淨雲と木食淨雲の
と以て淨雲の号あり　又或號に當社を太田乃
清水觀音堂　京師清水に比して舞臺造り　主馬盛久守護
斬首の罪に處せらるる時清水觀音の加護によりて刀杖
さんと東鑑にあり　余の書にも此事を見る
山王大權現社　清水堂の南にあり　内陣拜殿階下に悉く彫刻ありて輪奐玲瓏人の
勸學寮　俗に百軒長屋と云　五十余宇にて二百戸
居る所なり　講堂　日本に三教の書を講ずる
檀所なり　勅學講院と号し貞享元年に創
天和四年に建立せり　今は釋迦如來の像を安して　經藏

三聖人の古銅像を安置し屋上より柱底に至るまで悉く銅葉を以て包裹し四方八石塔を畳くこれを築き繞らせ又経蔵の法左の方に戒師慈光禅師授号師前絶泉禄寺法石大和尚あり二親養父母をひとり自得居士の石塔婆を造立し傍に俗名の石像あり同所石壁の外に道行の碑を建てり文は黄檗の泉和尚これを撰せ

武州東叡山勧学講院了翁僧都道行碑記

自古法中大沙門播名布徳於天下者豈苟然哉莫不皆是菩薩乗風願輪而生於世故示行菩薩六度万行以利天下使天下人咸言跡於無上無等等至真勧学至度聖之域此之妙行実未易以自脱白為沙門都傍学講院了翁僧都者豈其人欠其戒律不及唐諸世識儀到虚宿露不常発大乗心行菩薩行精持戒人乞食風俗講院正能親近黄檗開山隠老人以己憂唯憂佛法不大興於吾世而世之僧徒乞武陵東叡山叙中築径藏以貯三藏聖教其外畫像乃明僧知定公髪之師得内奉三聖像左右立其戒師祝髪自得二雙銅葉益古銅像火患也居士本院僧衆九百八十人此藏前僧都父母親養孝帆如此藏前僧都父母親養孝帆如此藏前僧都父母親養孝帆如

安學成足以爲世福田也於乎今之爲僧也則田
我已脫塵出俗圓項方袍作三界大師之子一
盍飄然自在天子莫得而臣王侯莫得而友高則高
矣是則不成人與夫四衆莫知其都者可謂知德嘗於二三敬王十
流則未成滿足菩提若僧事門中不捨一法乎以若格一
公大以苦行所積淨貲盡贖大名重之其德嘗施諸濟名山北
載間講院今春嚴世所罕都有謝恩僧都遂到爲院契相訪
大之立院今年凡二十一藏矣年來又黃檗爲虎藏之願國經帥敬施建賢爲脩之
刹其非佛世之迦葉波乎尹與諸老病尹嘆曰老而頭陀不及
行以講院世之迦葉波乎尹與諸老病尹嘆曰老而頭陀不及
飯用保道船僧都終不致尹奉藏所益之願國經帥敬施建賢爲脩之
然行則竹策蒲鞋以致一小樓禾交侵嫌棄常勤食則藜羹粟受息至
奉已至薄每坐臥子院小但有黃檗又賢爲脩之
飯行則竹策蒲鞋以致一小樓禾交侵嫌棄常勤食則藜羹粟受息至
用保道船僧都終不尹與諸老病尹嘆曰老而頭陀不及
佛世之迦葉波乎尹與諸老病尹嘆曰老而頭陀不及
非世之迦葉波乎尹與諸老病尹嘆曰老而頭陀不及
其之立沽之嚴世所罕都有謝恩僧都遂到爲院契相訪
之立沽之嚴世所罕都有謝恩僧都遂到爲院契相訪
大之立沽之嚴世所罕都有謝恩僧都遂到爲院契相訪
行以講院世之迦葉波乎尹與諸老病尹嘆曰老而頭陀不及
以講院世之迦葉波乎尹與諸老病尹嘆曰老而頭陀不及
壬中勸後賢云皆毅且

元禄黃檗山萬福禪寺五代住持高泉敦敬撰

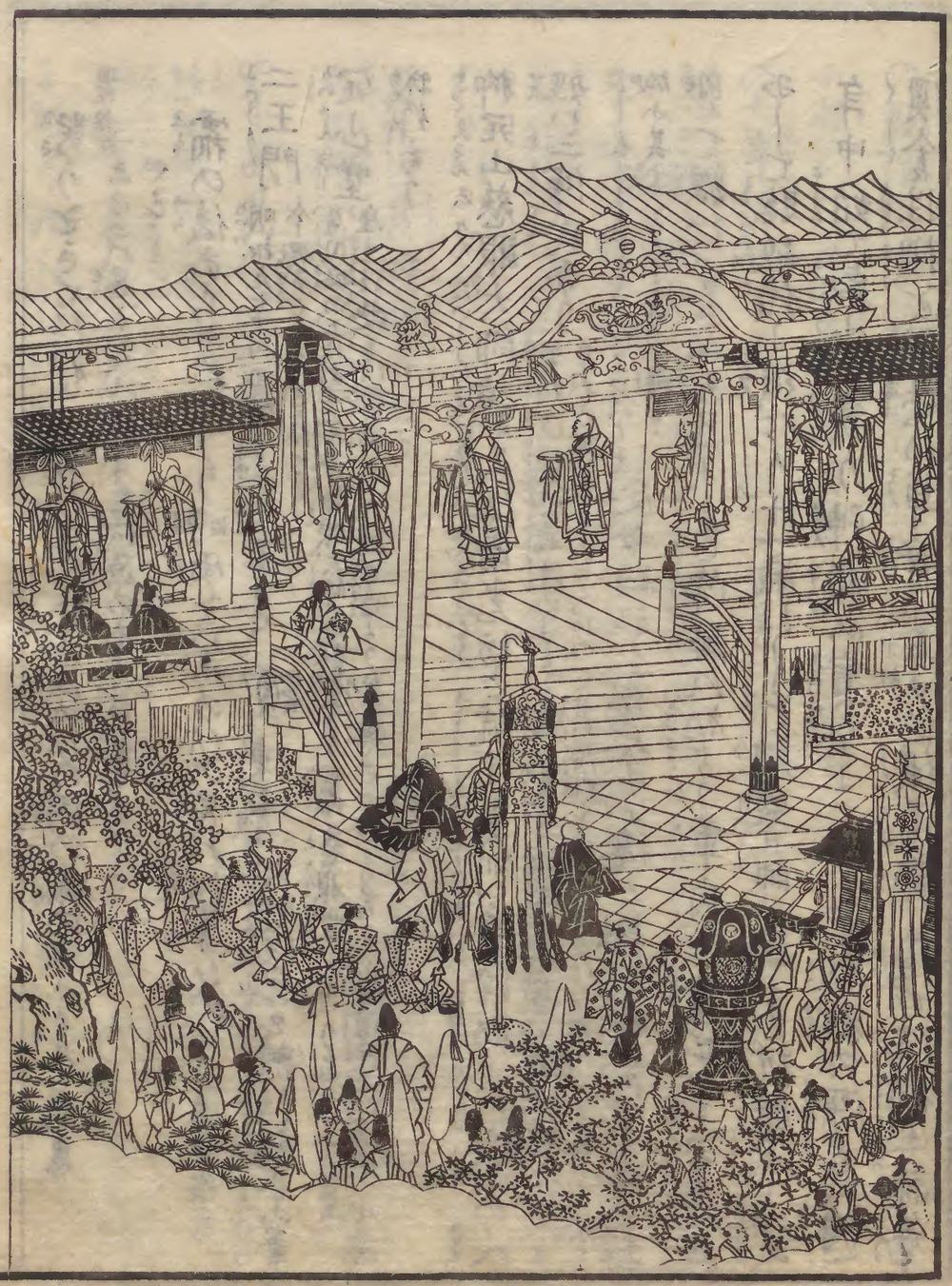
勸學坊了翁僧都　其の俗性は玲木氏初加尾勝郡八幡村の産なり寛永七年庚午三月十八日に
生る寵業なるやあり二歲よりして悉く親族となり一切八年辛巳壙因國
龍泉禪寺に入て沙彌となりつゝふ教誡自得居士のそゝかすよりて雜染一僧となりぬ
こゝをもて因緣の不可思議なるを感じ[illegible]
それ一切藏經は本來の行嚮なり人天の眼目なり[illegible]
いつて正保元年甲申十五歲法寺八幡宮に詣し[illegible]
至心に志願の成就を祈りたてまつり[illegible]

勸學坊了翁僧都　其の俗性は玲木氏初加尾勝郡八幡村の産なり寛永七年庚午三月十八日に
生る寵業なるやあり二歲よりして悉く親族となり一切八年辛巳壙因國
龍泉禪寺に入て沙彌となりつゝふ教誡自得居士のそゝかすよりて雜染一僧となりぬ
こゝをもて因緣の不可思議なるを感じ[illegible]
それ一切藏經は本來の行嚮なり人天の眼目なり[illegible]
いつて正保元年甲申十五歲法寺八幡宮に詣し[illegible]
至心に志願の成就を祈りたてまつり[illegible]

[illegible]四を經歷してあり弘く高徳の師に[illegible]
禪刹の冥山を定禪師の示唆によりて彌勒四の霊方を[illegible]
六年を經て其價の余[illegible]黃金三百兩を得[illegible]
中島にして地を賜ひ[illegible]一島を築き[illegible]
よりて其[illegible]報恩のため彌勒四を[illegible]二百人に[illegible]
余同の地を賜ひ勸學寮を建立す院内三蔓四百二百戸の寶倉を設く又三宮[illegible]文庫を建
傷老三教とよひ儒漢の經籍を收藏[illegible]
中鴻[illegible]藏經を建てこれを收[illegible]
其の所の大[illegible]を[illegible]感あり[illegible]
頃[illegible]三年高野山光臺院[illegible]一藏庫を置[illegible]
法卯[illegible]

[illegible]國院[illegible]釋迦文殊[illegible]
常念佛堂　[illegible]白[illegible]春日の[illegible]
宗廟　御當家　御代々の　御霊屋なり當山の院中なり
御別當と稱す
坊舍凡三十五宇　拾遺名所今[illegible]是を營建[illegible]食邑を附す
西の園　[illegible]名所中[illegible]當山の惣名なり八雲[illegible]
按ふ當山の惣名を上所と号す或[illegible]
の上所[illegible]
家分限帳[illegible]島津[illegible]
皆記[illegible]
天神[illegible]

十月二日冠山堂
法華八講



国立公文書館
National Archives of Japan

笑りをさてたれわ来れとりくさよ志のひの図の雲の志さうえ　竟恵

四国雑記　志のふれ器とりくる取りて松原のありけるよ

やもくくて

霜の後あらられよりり時雨をい志のひの思れ松もうひ如　道奥惟后

二王門　明応九年の回禄よ焦土とありて　東慮山　大明院宮之辨法親王の筆額

今建石くくりうと為せり

冥山堂　屋風坂の上にあり冥山慈眼大師の影堂　世俗慈眼堂とのくり毎年十月三日

座主法親王門跡師として住寺坊くくり輩興そふくらやくくり一山の僧徒出仕法華八講

執行あり

柳冥山慈眼大師諱ハ天海南光坊と號す奥州會津郡高田郷の人

姓ハ三浦氏なり　或ハ蘆名修理太夫盛高の一族ともいくり

是利法住院義澄のよりくくされと師在くくらくくいくりて其俗姓を問ハひとたひ空門よ入ぬれハ知と

ふ其実を考事を得す　父母嗣れく月天子よ禱り其母奇花を呑と夢

見て娠むさふ九月ようて降誕ス初より葷肉を食せすん奇清朗

ようて聰敏ス幼ハ十一歳にして辨誉師よ投して祝髪くくて天文

年中始て叡山よ登り神藏の實全よまくえて台教の深青玄傳へ

倶舎性相を園悉の尊實よ学ひ後南都よ往て法相三論等

の教法学ひ成重といくくよ達て神道の奥儀を究足利の学校

ふ遊ひて孔老の書を讀道器といくくふ前摺厳を学ふ後洛よ帰り會津

の大寧禅師よあひて教外別傳の旨を發明くくて善悲和尚ふ碧厳

集を聽一百則の話頭を會得ス其頃甲斐の信玄台教を敬ひ

ある時諸師を請くて論義せくくわ天海を講主とす衆皆辞理の辛辣を

感称ス是よりくて名を朝野よ志らふ後常別江戸侍不動院よ

住す時ふ文禄二年甚大よ早ス民うれて師をくて請雨の法を修

せくむ其時神女あつて五鈷杵を授く師高田浦の深渕よ臨むて

法を修くふよ膏雨忽注て百穀大ふ登る彼五鈷杵今猶住て　又慶長

四年武州仙波の喜多院よ住す同八年下野国長沼の宗光寺ス

移る同十二年

神君　命くて叡岳の南光坊よ住持せくめ再ひ　命くて喜多院

よ帰り居らくむ同十四年山門よ登り法華大會を行ふく時よ

両大師遷座

毎日の御日中の影を次の院遷坐

おしるし是で拝迎

奉らんとて江府より近の者く群参して道路の

匂ひ実に此地熱閑

の中最とも首なる

国立公文書館
National Archives of Japan

清水堂花見圖

上野清水堂

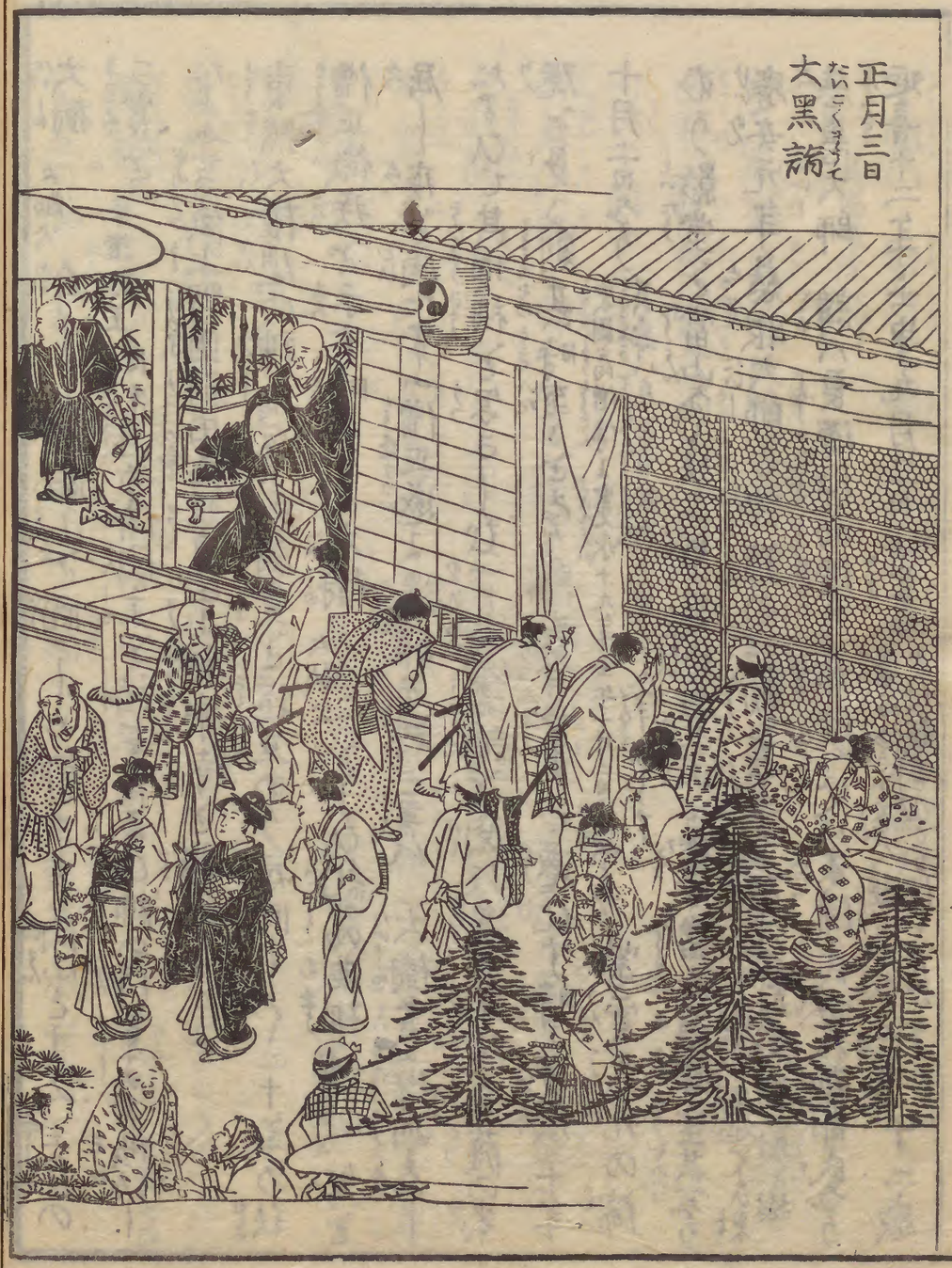
掛かけて
志ゝも
さゝらの
橋
うれ

宝井其角

国立公文書館
National Archives of Japan

重職の勅許を蒙り新題者の精義嚴重なりとやめくり
上皇 後陽成院 度々召ありて法要を詔問したまひ奏對詳明なるを
依て感感ぶ〻権僧正に權られ御ぶ〻伴夜燕尾等を賜ひ
山科の毘沙門堂の門室に附せらるゝ震翰を下したまひ権を轉して正
に任ず同十七年
神君河越に狩したまふ折〻仙波に立寄せたまひて殿堂を修造せ
ん莊園を寄させたまふ同十八年復命を兼ねて日光山に居る
神君薨去れ後其遺命を奉して葬を久能山に営む元和三年尊
靈日光山に遷坐し奉る是往古の大職冠の例に倣へ則山王
習合の神に鎮たてまつり勅を奉して
東照大權現と號し奉る 大樹 台德公 亦神君をとゝせなん
優寵したまひ給る其先元和二年大僧正に任せられ 先帝 正親町院
二十五の御遠忌にも伴導師に請したまふ后後寛永二年

大樹 大猷公 命して東叡山を開かしめ師をして開山とす又上皇の
二宮を 守證親王 日光山の門主を請せ給ひ師の伴僧に仕へ
たまふ其後上野國新田庄世良田山長樂寺を賜ひ
東照大權現の神祠以下の諸堂を造立あり亦同じく二十年の秋
僧正微疾を示す時に 大樹 大猷公 とゝひ紀効典相 賴宣公 駕を
屈し疾を問たまふ僧正遂に遺語五則を書て 大樹畫工探幽に命し
たまひて其頂相を写さしむ一日唯識論を閲て忽に文殊菩薩の來
現を見る則其時至るを知り端座合掌して遷化す時に寛永二十年
十月二日なり 東國高僧傳に寛永十九年壬午十月二日化寂とあり 其壽八百有余歲といふ 紫雲天花の瑞
あり影堂を當山に建ひ日光天台の三山に建る當山慈眼堂是なり
慶安元年慈眼大師と諡號の詔勅を下したまふ 以上兩大師緣起とゝひ東國高僧傳等の要を撰
慈惠大師 諱は良源江州滋井郡の人父は木津氏母は物部氏なり
延喜十二年壬申九月三日に生る 父母ともに高貴なる人なり 観音に願ひて誕生とぞいふ 十二歲



正月三日
大黒詣

毎歳正月三日ハ鄰下の
諸人東叡山護國院の
大黒天へ参詣す此作景ハ
京伝信貴筆なり
世ゝ霊験著し此日供物
の貧餅を湯ふひたしと
象徴の華おあるゝ俗
是をぬて作福の
湯とい

まして叡山の理仙を師とし同六年に薙染す理仙入寂の後三條右大臣定方公恩訓律師をして大師に受戒せしむ亦尊意僧正を拜し登檀し早く博學の名を得たり應和三年八月清涼殿に南北雄才の僧を召て御八講行はせたまふ時に昂身成佛の相を顯す康保三年天台の座主に補せられ山務を領する事をくて二十年に天禄二年四月十五日梵網戒品を誦し終て數白を唱ふるに至つてロより光明を放りといへり天元四年七月大僧正に轉し輦車れ宣旨を下し給ふ永觀三年正月三日弥陀の尊號を唱へて入寂したまふ化壽七十四一條院永延元年其德の高を仰さて諡を賜ふ（以上両大師傳記え亨紀書等の要をつむ）

慈恵大師 景像

民部法眼筆

慈恵大師の景像は阿闍梨の君の宮させたり真影と共に比叡山にあり元亀の頃尾張織田氏山門を襲れし時その折の執事福成坊の阿闍梨をたらし両像を預たてまつり香炉の谷を経て仰木村をさして行けるに敵道をさくて元徒一人も通さしと矢をとれ打ちかくに供奉すれ元三大師の尊像ありしかも通すへしと いひれれ此ふの大將関白秀吉公いまだ木下藤吉郎といへる時ありしに題をいそさ馬上より恵を免道を冠さて通しなてまつり忘てみをひて兵燹の難を免れたまひ又湖東にいらせ給ふ時法をたてまつり後山門再興あり天正年中彼阿闍梨の尊影は樸川に還座なしたてまつる今四季講堂に安置しなたてまつる是より民部法眼の子孫安濃津の西來寺といへるに代々伝来せり其後彦山門より乞ひ求めて永十七年丹精をこらし下し給ひ慈眼大師遺言してのたまふ寺山の例にならせこの景像を當山院々三十日づ執事一箇月つ執事なたてまつるへし又大權の聖像に並ひむかひ忍れあれとも我頑像もそのあとにまつりもよ大樹の門武運を守りなたてまつる國土豊饒を恵んとそ夫より當山院々に歩を運ひ行頂なとる成就せすといふとれし日毎の三日十八日毎に祈願を

同除魔 景

或時疫鬼來りて慈恵大師を悩さんとす時に四融三諦を觀して彈指したまふ中の夜又の形相をあらはしこつつ憑を把て紛をうつ拙言つて宣く疫災を遁れ萬民草屋の扉に至るまて今に亦紛像を貼したまふ

東鑑曰寛元五年丁未三月二日乙卯今日可摺寫不動並慈慧大師像之由被仰政所之間有其沙汰

同二十八日辛巳爲將軍御祈不動尊並慈慧大師像一萬體被摺寫之今日有供養之儀導師松殿法眼也信濃民部大夫入道行然奉行之

權大納言飛鳥井雅経卿ハ遁世の仙人なり大師を信仰し給ふ常ふそえすとうとこのひたすら紛像を貼

慈恵大師の尊像を毎月度拝たてまつる上ハ玉躰ゆ

むしわ其外ワさくしさ図の書ゆ後ゆのたわさ両道の門徒

といのることを多年よりこゝろざし今老病ころもをくるる分
明も拾たてまつるとそ世もひつけ々るふ
永劫世ふるらん後のまゝそもいのるくハとゝもとゝ思ふ　栄雅

慈眼大師真影　狩野探幽筆

慈眼大師の真影ハ慈恵大師の影像と共ニ當山院々頃番ニて一角月ほく執奉
ハ年ごとの十月ハ佛事執行ス遷坐ありて信濃国隠山ハ在しを當山ニうつしたてまつり
大悲籤　慈眼大師多中の苦ニよりて信濃国隠山ハ在しを當山ニうつしたてまつり
今も両大師の龕のまへに安置す諸人吉凶禍福をトス尚ほ掲ること〳〵

佛祖統紀曰　大士籤天竺百籤越圓通百三十籤
以支吉凶其應如響相傳是大士化身所述云云

柳當山ハ江戸第一の桜花の名勝ニて一山花ニあふれと云ふ〳〵
台命ニよりて和州吉野山の地勢を摸〳〵植させらるゝ故ニ花ニ速
あり遅ありて山上山下盛をいそそり弥生の花盛ニハ都鄙の老若貴
とれく賤とれく日毎ニ袖を連てこゝニ群遊〳〵花のそゝ尺すの地を
爭ふて帷幕、珠張延席を設く詩歌管絃ハ鶯聲ニ和〳〵錦衣繡裳ハ
花影ニ映〳〵愛玩賞詠日の暮を忘ら
慈雲山瑞林寺

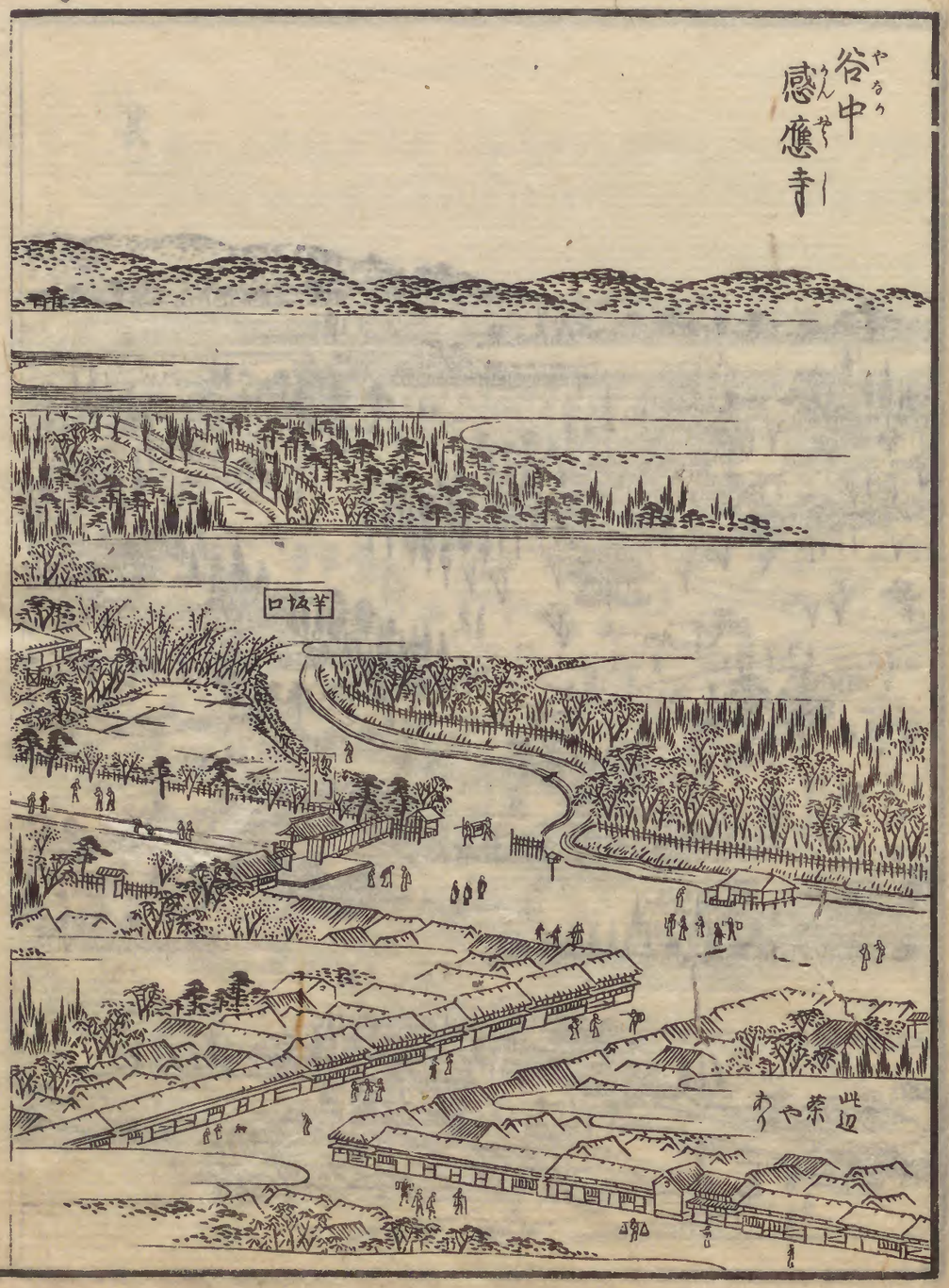
上野清水門の外武三丁北の方ニあり日蓮宗ニ〳〵て

螢澤

谷中宗林寺の境内ニあり又ハ林寺の池とも螢池と唱ふ夏すて此辺ニ螢の光り他ニ勝れそゝり

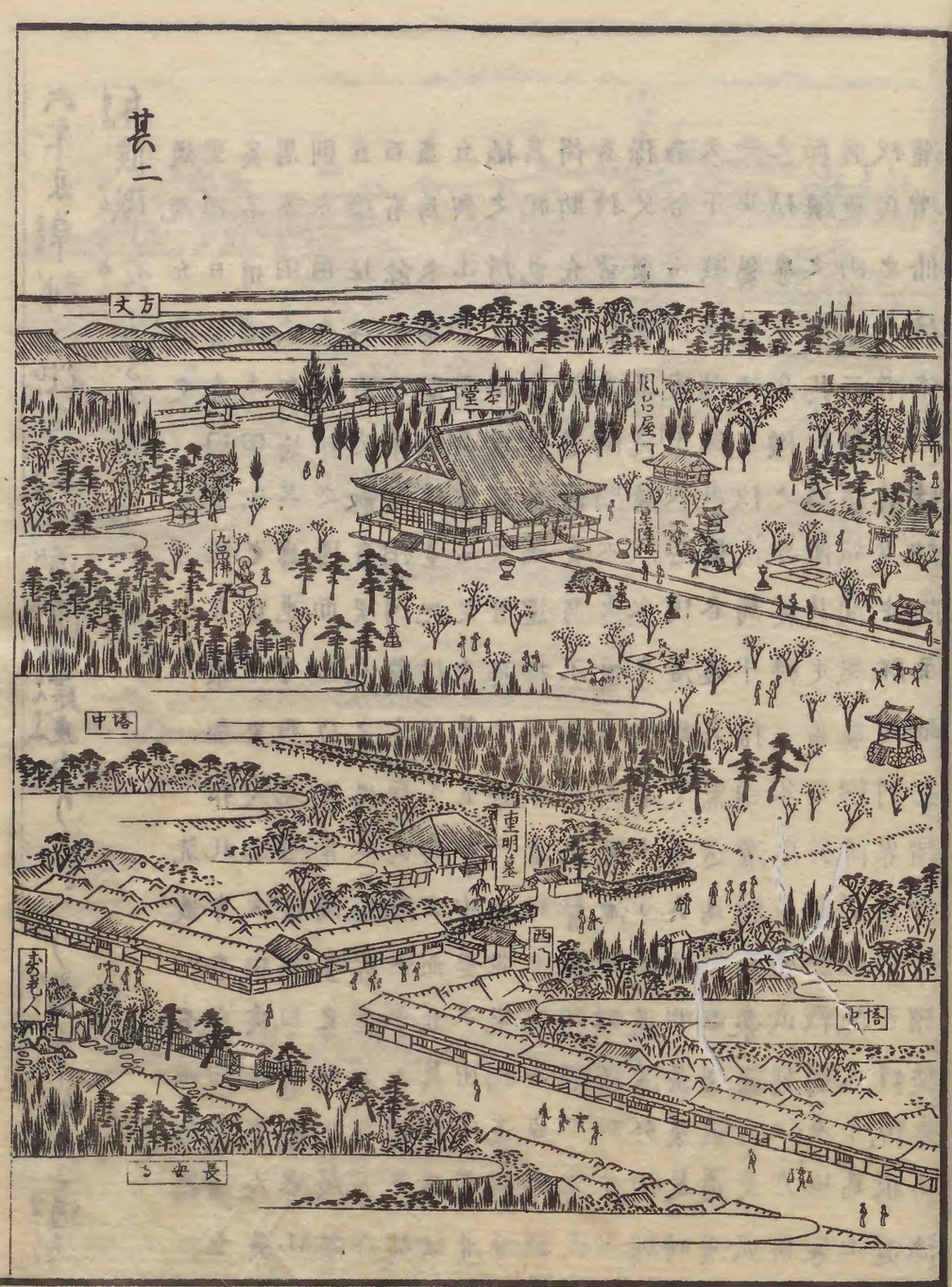
草地茶を
落るよう
花ちる
哉

芭蕉



甲州身延山の觸頭江戸三箇寺の一なり冠山ハ本山十七世慈雲院日新上人
天正十九年に草創なり本尊丈六の釋迦ハ延宝五年に回禄ゑ不
るゆて今仏首ゑなりを存せり　當寺ゑ安置る日蓮大士の像ハむかし因幡国
感應寺ゑありしを彼寺改宗のときなりこゑ福といり

長耀山感應寺　上野谷中門の外ゑあり天台宗ゑして本尊ハ傳教大師
の作の毘沙門天を安置ハ當寺始ハ日蓮宗ゑして宗祖上人を冠山と号日長
上人中興ありて中々浦一宗の寺院たりしゑ元禄年中故ありて台宗に
改られ爾ゑ後東叡山ゑ属ハ其時大明院宮の御願ゑよりて叡山
横川ゑありし傳教大師の作の毘沙門天の像をこゑ丹移し本尊と
せらる京師鞍馬山の毘沙門堂ハ比叡の乾丑當りて佛法守護の道場を
れハ當寺も東叡山の乾ゑ當を以て鞍馬寺ゑ比せらるゝといくり境内
桜桃の二花ありて春時煙燵そり
五層塔始當寺中興日長上人建立あり正和九年の火災ゑ焦土とるれり仍て
慶政の今再建しゑ後せり
長久山本行寺　同取ゑの通ゑあり日蓮宗ゑして冠山ハ日玄上人大永


文方
本堂
風じん屋
中塔
重明堂
西門
中塔
長安ち

東門
番神
いなり
中塔
中塔
護寺いなり

六年及草創に往古八幡田道灌の建立るりといふ當寺庭中に道灌の
年候塚と称するものあり

道灌丘碑文

里曰日暮寺曰本行在東都郭筑波有石正猗撰
奚名道灌太田道灌無忘其惠也號寺半西里北人思北寺太田氏丘
思太田氏保郭之遺而丘乃思其北有思山亦田臺之曰氏道灌人
則太田耳右之叔自里人之太田不在懸河谷忍氏太亦候中去既田氏也灌蓋
丘唯址耳氏丘傳昔舊徃寺孫名持父道資官蓋寺在皆黍閔于今矣相坨寺
百有餘年之里彷徨太舊名持斯丘也所山木壘壞臺坨傳里人
盡爲木山皆黍閔于今矣相坨寺彷徨太舊名持斯丘也所山木壘壞臺坨傳里人
與之祀而用其壘壞臺坨傳里人
山所在寺蓋官資道父名得其攝丘
皆黍閔于今矣相坨寺彷徨太舊名持斯丘也所山木壘壞臺坨傳里人
用其壘壞臺坨傳里人
其壘壞臺坨傳里人
攝之名臺坨傳里人
丘名得其攝丘
斯丘也所山木壘壞臺坨傳里人
持斯丘也所山木壘壞臺坨傳里人
名得其攝丘
孫名得其攝丘
扇孫名得其攝丘
谷扇孫名得其攝丘
父谷扇孫名得其攝丘
道父谷扇孫名得其攝丘
資道父谷扇孫名得其攝丘
丘資道父谷扇孫名得其攝丘
也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
保氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
丘而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
里丘而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
人里丘而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
自人里丘而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
昔自人里丘而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
傳昔自人里丘而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
相傳昔自人里丘而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
矣相傳昔自人里丘而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
壞矣相傳昔自人里丘而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
壘壞矣相傳昔自人里丘而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
閔壘壞矣相傳昔自人里丘而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
于閔壘壞矣相傳昔自人里丘而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
黍于閔壘壞矣相傳昔自人里丘而遺叔郭之右耳氏田太則丘盡百有餘木山所也丘資道父谷扇孫名持斯矣得攝之名臺壞壘其用而祀之與山所也丘資道父谷扇孫名得其攝丘
舊

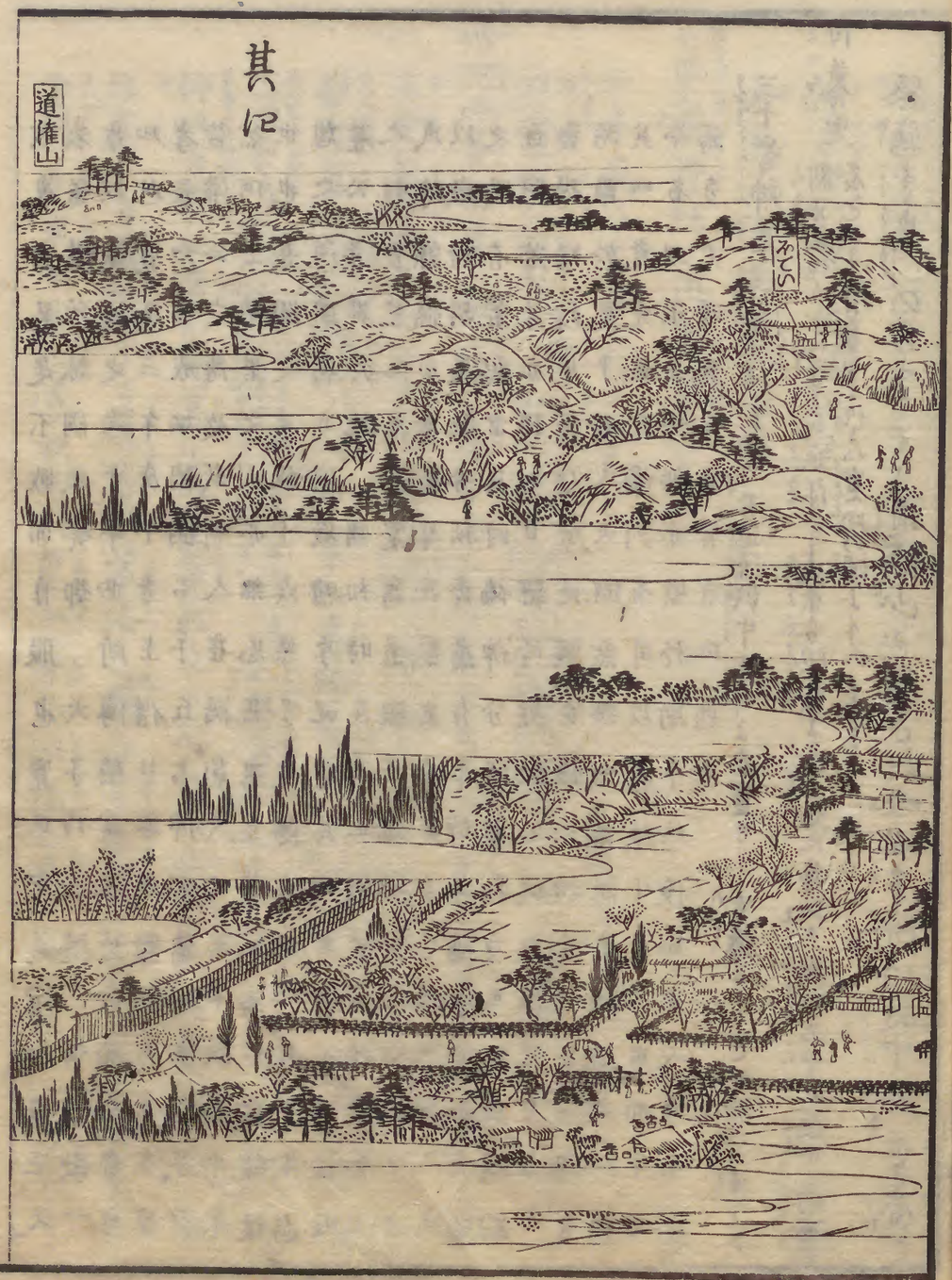
百観音
養福寺
方丈
人丸社
方丈
南泉寺

二
狂王寺
清盛塚
天面宮
長相寺
宗林寺

琉球根
や茶
や茶
番神
や茶
西陸寺

其三
御腰掛所
本堂
六地蔵
や茶
や茶

其二



我專爲暴是不戰而自服也寛正中道灌入京王人采道灌所詠國風奏御天子乃賜御製歌一章以褒揚之迄于今世所傳稱其人英武而又者可知也寛延三年庚午寺主僧日忠與懸河大夫古屋昔灌公之德成煥圖樹石子主宮成武州人豈摘丘上俾余屬厥事石子曰孝長四人亦無忌其惠丘其址焉以貽諸後乎不然何至斯里之人亦無子孫無亦監於斯乎然後知里人丘其址

世也吾聞之羊叔子必無憩之所建廟立碑歲時享祀望其碑者靡不墮淚唯

令名以示子孫無亦監於斯乎然後知里人丘其址焉也夫

其四竟完其守備訓右司以義施小民以惠而光昭祖聿脩厥德將愼

焉爾於是乎君大夫慨然無念爾祖聿脩厥德將愼

發揚踊躍用兵乃皆延頸企踵以待斧候之舉燧者

白羽若月赤羽如日壁司徒鋭司徒各愼其守盤士

之必右若觀當其時褊裨分隊整勒戎馬旍旗纊紛

以歲時朝東則春秋齊肅有事群犀攝遂登斯丘望

凡時繇繇奕葉昌阜其斯爲盛矣方今縣河君大夫

之封食邑五萬石寔爲道顯公繇顯公又四世千今

灌公者異於此國初時其五世孫資宗始稟芽土

三十番神堂　新堂なり　仏堂のうへにあり　昔道灌城中平川より安置せ〳〵霊像なり〳〵て冥眼八日蓮上人

同暮里　新堂なり　仏堂なり　永孫二年北条分限帳より遠山弥九郎江戸紀行の中に屋中新堂の

名を加へ今日暮里と似るハ寛延の頃よりの事なりとこのよし

感應寺裏門のあなうより道灌山を界とし此辺寺院の庭中奇石を畳て

假山を設け此時草木の花絶に常より遊観の徒ハ枕中二月の半より酒

亭茶店の櫓几不せく貴賤袖をはらへて春の日の永を賞なる此里の

名ハ〳〵あるりのあらん

七面大明神社　同不延命院といふる日蓮宗の寺より安置す冥山日長上人萬治

三年庚子正月十六日夢中ハ霊告を得て後勧請すとなり

或人云　慶安元年　三澤の局甲斐の七面山〳〵ハ日の向赤龍〳〵　夏中に鱗一枚を感得を

依て當社を建立　厳命に因て延命院と号るとそ

補陀山養福寺　観王院と號す同不北の方ハ丘ハ山なり本尊い三尊の弥陀佛冥山い

本食義高上人なり　傳い前の口満寺の余やハ

観音堂　西国坂東秩父百番の本尊如意輪観音　佛立春日の作なり　西国札不第一番

紀列那智山のうつしなり

十一面観音　仏法大師の作なり　坂東札不第一番　正観音　慈覚大師の作なり　秩父札不第一番

相州鎌倉牧氏のうつしなり　百観寺の模なり

抑此百観世音い義高上人の建立れり上人初高野山の高臺院ハ住職

たるを後彼寺を退去〳〵當地ハ趣き百番の札所を摸さむ事を

企川是本土ハ至りあるに四人女等の結縁の為とて依て此地ハ

小庵のありける所にて寺とし
寄附せられしとて本尊おろく野山より迎へ奉る霊像なりといとも
百幹よりえさるを欲きこれを彼補し一幹毎に佛舎利一顆を御首に
籠竟百幹の尊像全らしむとなん二王門の額に補陀山とめる小路
隆貞卿の真蹟なり

諏訪明神社　同所北の方諏訪の臺にあり信及諏訪の祭神におはし（上説に諏訪
健御名方命は流浪八坂刀賣命なり古事紀云　健御名方命は大己貴命の子なりとあり）　当社は元亨の頃豊島左衛門佐建立
す其後左田道潅此地を江戸城の出張の砦とせしより彼営して郭内の
鎮守とゐたりしとそ社頭今も枝の木立生茂りて上久たり例祭は七月廿七日
なり当社別当は真言宗にして法輪山浄光寺と号し当寺の書院は
高崖に架して眼下に千歩の田園を見わたせり風色殊に幽雅にして
四時の眺望たらすと云事なし中にも雪のなかめ勝れたり世に称
して雪見寺とも号とかや

人麻呂祠　蓮池庭中小祠あり頭陀法師の作なりとそ三尺の地蔵尊なり慈願庵空上人
の自木をもつて作れり是則指南佐吉社へ移す
地蔵堂　建立あり天保二年小宅眼供養したる地蔵尊の一なり
浄居山青雲禅寺　同所小あり曹洞宗にして岩田家代々布金
の道場なり昔堀田相州刺史紀正亮侯羽州山形城主の頃白隠和尚の道
徳を慕ひ師に就て法を需む候　台命を奉して封を小總の佐倉に
移すの頃彼地小庵を結ひ師を請て奏座せしむ其後当国入間郡
より藤井山浄居寺と号する頽廢の寺院を引て此地に当寺を草創
す白隠和尚宝暦七年相の鎌倉建長寺にて化す依て候麟祥頑倫和尚と称して当寺を建
立す故に白隠和尚を開祖とし頑海和尚を中興とす青雲の二字は正亮侯の法号なり
其後融君正順侯香花料として北總の佐倉にて百石の地を寄附せらる
境内富士浅間宮秋葉金比羅辨財天護国稲荷等何れも往古在田
道潅の勧請なりとかや
船繋松　青雲寺の境内渚に臨み鬱蒼たり往古は
二株あり〳〵が一株は往安永元年の秋大風に吹折て今は一株の

道灌山穂蟲

文月の末を空中
小ーてとりにしさ
名ゐ〜あゝ虫塚
の辺を奇絶とす
風人吟客こゝ
来りて終夜その
情音を弥重す
中ゐも蓮兒の言
八隅て鳴しく
蕭寥行孤蛩の
あり見るる小
金琵琶の振捨
くゝくとゝ
有明の月を
待出くるも
一興とや
いとゝ

はらふふ
すむ
さゝを
海芋
れ
其角

殘まつ此樹蔭より眺望れい荒川の流まに白布を引かとく絙
波黒髪の山〳〵に畫小似たり豊島の村落い眼下小ありて耕し畑
う川賤ゝ業まくも一望小入利根川の遠帆緑樹のうけに臥へえかられしく
けれ〳〵白鷺の飛ゝとく此地の風色画中にあるゝ如し
弐人云く往昔此禁龍ハ豊島川小接し入江ゝ道灌の砦城あり〳〵須い米穀其外まへ運送
の船ゝ〳〵はちく〳〵とゝい目的小する林いる小河〳〵ゝ後道灌山の松つゝき松と称し
道灌山　一名を城山ともいへ南い新堀を限ゝ小い平塚小接す往
古ゝ田道灌江戸城小ありし頃出張の砦城とせし跡ありとも
又関道観坊といへる者の茅宅の地ありとも云伝ふ道観坊ゝ小改命長雄といふ後雄雙し
感寺を長雄山と称ふもいれゆゑなり　此地薬草多く採薬の
輩常小こゝ小来れゝ殊小秋の頃い松虫鈴虫露小ふりいて清音
を〳〵いす依て雅客幽人とく小来り風小詠し月小歌ふて其言
を愛せり

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan